



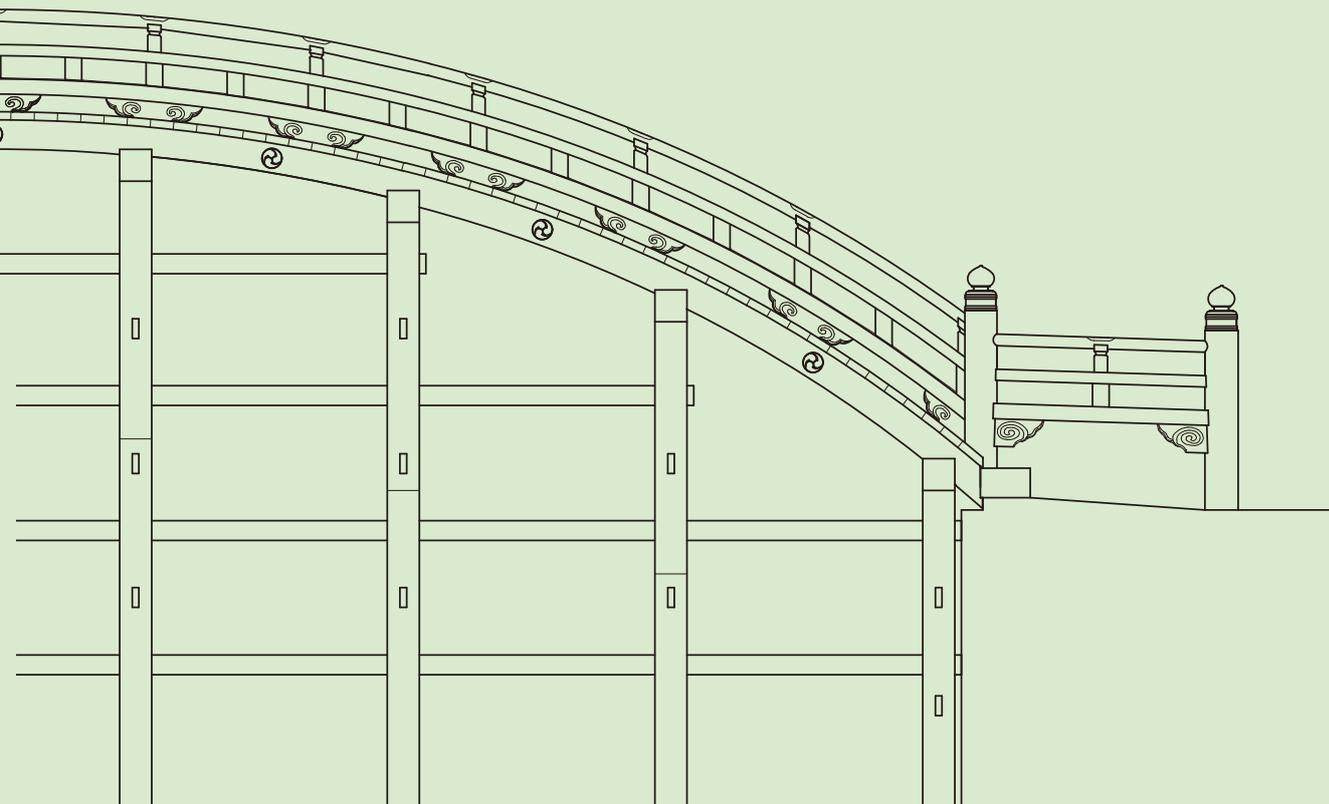
---

公益財団法人  
和歌山県文化財センター年報

---

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2015





1 寺内古墳群、相方遺跡 2・3区全景（北西上空から）



2 寺内古墳群、相方遺跡 掘立柱建物跡（南から）

巻頭写真 2



3 新宮城下町遺跡 調査区と新宮城跡（西上空から）



4 新宮城下町遺跡 調査区全景（北から）



5 広八幡神社 楼門（竣工）



6 金剛三昧院四所明神社 本殿（竣工）



7 総持寺 総門 (竣工)



8 丹生都比売神社 輪橋 (竣工)

# 目次

平成 27 (2015) 年度 受託業務一覧 …………… 1

平成 27 (2015) 年度 受託業務所在地図 …………… 2

## 埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等

田屋遺跡の発掘調査……………	3
寺内古墳群、相方遺跡の発掘調査……………	4
藤並地区遺跡の発掘調査……………	5
新宮城跡、新宮城下町遺跡の第 1 次発掘調査 ……	6
平井遺跡、平井 II 遺跡の出土遺物等整理……………	7
和歌山城跡の出土遺物等整理……………	8
川辺遺跡の出土遺物等整理……………	9
根来寺遺跡、山口古墳群の出土遺物等整理……………	10
西浜田遺跡、東浜田遺跡の出土遺物等整理……………	11
木津遺跡の出土遺物等整理……………	12
小松原 II 遺跡、湯川氏館跡の出土遺物等整理……………	13
岩橋千塚古墳群の発掘調査支援……………	14
佐野廃寺の出土遺物整理支援……………	15
金剛峯寺遺跡の発掘調査・出土遺物等整理支援……………	15
亀山城跡の測量調査等支援……………	16
新宮城跡の試掘調査支援……………	16

## 文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 広八幡神社本殿ほか 5 棟の保存修理…	17
重要文化財 金剛三昧院四所明神社本殿の保存修理…	18
重要文化財 安楽寺多宝小塔の保存修理……………	19
重要文化財 宝来山神社本殿の保存修理	
県指定文化財 宝来山神社末社東殿・西殿の保存修理…	20
重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか二棟の保存修理	
基本設計……………	21
県指定文化財 総持寺総門・鐘楼の保存修理……………	22
県指定文化財 旧和歌山県会議事堂の保存修理……………	23
国登録文化財 旧橋本陣池永家住宅 3 棟の保存修理…	23
国登録文化財 みそや別館の保存修理……………	24
史跡 丹生都比売神社 歴史活き活き史跡等	
総合活用整備事業～輪橋の保存修理～……………	25

## 関連研究・資料紹介

地籍図を利用した湯川氏館跡の復元……………26

文化財建造物の年輪年代調査報告  
—総持寺総門の建立年代と使用されている木材の産地— ……27

## 普及活動

平成 27 (2015) 年度の普及活動 ……………29

## センター概要

平成 27 (2015) 年度概要 ……………32

## 巻頭写真

- |                               |                      |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 寺内古墳群、相方遺跡 2・3 区全景 (北西上空から) | 5 広八幡神社 楼門 (竣工)      |
| 2 寺内古墳群、相方遺跡 掘立柱建物跡 (南から)     | 6 金剛三昧院四所明神社 本殿 (竣工) |
| 3 新宮城下町遺跡 調査区と新宮城跡 (西から)      | 7 総持寺 総門 (竣工)        |
| 4 新宮城下町遺跡 調査区全景 (北から)         | 8 丹生都比売神社 輪橋 (竣工)    |

## 例言

- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが平成 27 年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務、及び普及活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載した地図は、和歌山県教育委員会が発行する『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』2004～2006 年度 (地図は国土地理院発行の数値地図 1:25,000 の複製) 及び数値地図 1:25,000 の複製を一部加筆し引用した。また、各自治体の発行する 1:2,500 都市計画基図を一部加筆し引用したほか、電子国土 (<http://cyberjapan.jp>) 提供図の複製を用いた。
- 3 掲載写真・図面は、基本的に調査および整理中に撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理作業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 4 掲載した座標値は、平面直角座標系第 VI 系 (世界測地系) による。
- 5 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、多井忠嗣・藤井幸司が担当した。

## 平成 27 (2015) 年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

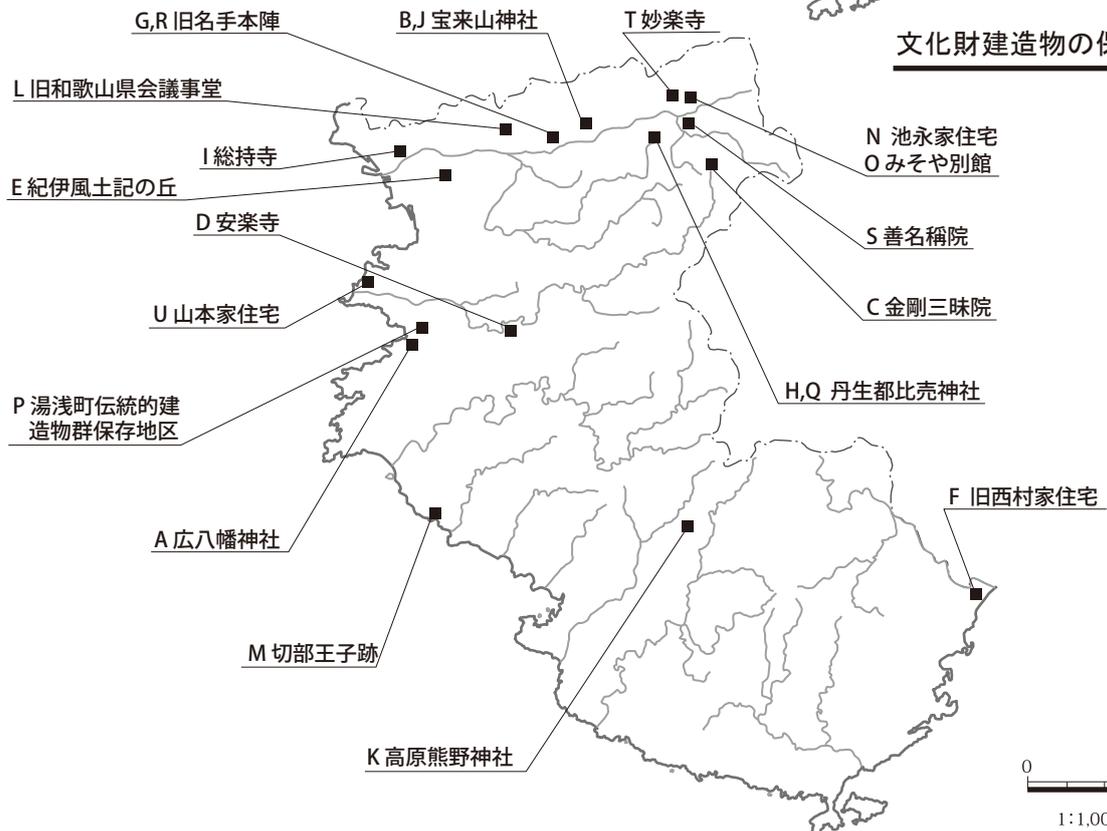
埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	紀伊停車場田井ノ線道路改良事業に伴う田屋遺跡発掘調査業務	和歌山市田屋	2015.11.03～ 2016.03.31	1,987㎡	和歌山県
2	近畿自動車道松浦那智勝浦線(仮称)和歌山スマートインターチェンジ建設事業及び和歌山橋本線道路改良工事に伴う寺内古墳群、相方遺跡第1次発掘調査業務	和歌山市森小手穂	2015.11.01～ 2016.03.31	2,188㎡	西日本高速道路株式会社・和歌山県
3	一般国道42号(湯浅御坊道路)4車線化事業に伴う藤並地区遺跡埋蔵文化財調査	有田郡有田川町藤並	2015.10.29～ 2016.03.31	699㎡	西日本高速道路株式会社
4	新宮市文化複合施設建設に伴う新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査業務	新宮市下本町・新宮	2016.01.07～	2,416㎡	新宮市
5	第二阪和国道建設に伴う平井遺跡、平井II遺跡第1次出土遺物等整理業務	和歌山市平井	2015.06.19～ 2016.03.22	—	国土交通省 (近畿地方整備局)
6	和歌山地方合同庁舎新築に伴う和歌山城跡出土遺物等(第2期)整理業務	和歌山市二番丁	2015.05.08～ 2016.03.25	—	国土交通省 (近畿地方整備局)
7	一般国道24号京奈和自動車道建設に伴う根来寺遺跡、山口古墳群第1次出土遺物等整理業務	和歌山市山口 岩出市根来	2015.08.20～ 2016.02.29	—	国土交通省 (近畿地方整備局)
9	都市計画道路西脇山川線道路建設事業に伴う川辺遺跡出土遺物整理等業務	和歌山市川辺	2015.06.30～ 2015.11.30	—	和歌山県
10	和歌山橋本線地方特定道路整備調査(西浜田遺跡及び東浜田遺跡出土遺物等整理)業務	伊都郡かつらぎ町 西浜田、東浜田	2015.05.15～ 2015.09.30	—	和歌山県
11	国道424号道路改良事業に伴う木津遺跡出土遺物等整理業務	海南市木津	2015.06.16～ 2016.03.20	—	和歌山県
12	湯川中学校改築工事伴う小松原II遺跡・湯川氏館跡発掘調査の出土遺物等整理業務	御坊市小松原	2015.04.07～ 2016.03.31	—	御坊市
13	岩橋千塚古墳群追加指定に係る大谷山22号墳及び天王塚山古墳第2次発掘調査支援業務	和歌山市下和佐	2015.04.20～ 2015.11.30	60㎡	和歌山県
14	佐野廃寺の出土遺物整理支援業務	伊都郡かつらぎ町佐野	2015.02.15～ 2015.03.31	—	かつらぎ町
15	高野町内遺跡発掘調査等支援業務	伊都郡高野町内	2015.11.19～ 2016.03.31	59.4㎡	高野町
16	平成27年度亀山城跡測量調査等支援業務	御坊市亀山	2015.04.08～ 2015.05.29	7,567,266㎡	御坊市
17	旧丹鶴小学校グラウンド試掘調査支援業務	新宮市下本町・新宮	2015.06.11～ 2015.08.19	179.2㎡	新宮市
文化財建造物の設計整理業務等					
	受託業務名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	重要文化財 広八幡神社本殿ほか5棟保存修理技術指導	有田郡広川町上中野	2015.04.09～ 2016.03.31	6棟	宗教法人 広八幡神社
B	重要文化財 宝来山神社本殿保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町萩原	2015.06.01～ 2016.03.31	4棟	宗教法人 宝来山神社
C	重要文化財 金剛三昧院四所明神社本殿保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2015.06.01～ 2015.11.30	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
D	重要文化財 安楽寺多宝小塔保存修理技術指導	有田郡有田川町二川	2015.11.02～ 2016.03.31	1基	宗教法人 安楽寺
E	重要文化財 紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕の設計監理技術指導	和歌山市岩橋	2016.01.09～ 2016.03.29	2棟	和歌山県
F	重要文化財 旧西村家住宅保存修理事業基本設計	新宮市新宮	2015.06.02～ 2016.01.29	3棟	新宮市
G	重要文化財 旧名手本陣妹背家住宅主屋、米蔵保存修理事業基本設計	紀の川市名手市場	2015.10.02～ 2016.03.31	2棟	紀の川市
H	重要文化財 丹生都比売神社本殿及び楼門防災施設等事業に関する技術指導	伊都郡かつらぎ町天野	2015.06.01～ 2015.12.31	5棟	宗教法人 丹生都比売神社
I	県指定文化財 総持寺総門及び鐘楼保存修理技術指導	和歌山市梶取	2015.04.01～ 2016.03.31	2棟	宗教法人 総持寺
J	県指定文化財 宝来山神社本社東殿・西殿保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町萩原	2015.06.01～ 2016.03.31	2棟	宗教法人 宝来山神社
K	県指定文化財 高原熊野神社本殿保存修理技術指導	田辺市中辺路町高原	2016.02.10～ 2016.03.31	1棟	宗教法人 熊野神社
L	県指定文化財 旧和歌山県会議事堂組立工事監理協力業務	岩出市根来	2015.04.01～ 2016.03.31	1棟	一般財団法人 建築研究協会
M	県指定文化財 切部王子跡保存修理事業基本設計	日高郡印南町西ノ地	2015.12.07～ 2016.03.31	1棟	宗教法人 切目神社
N	登録文化財 旧橋本陣池永家住宅主屋ほか3棟保存修理技術指導	橋本市橋本	2015.04.09～ 2016.02.15	4棟	池永 洋三
O	登録文化財 みそや別館主屋ほか2棟保存修理技術指導	橋本市橋本	2015.04.09～ 2016.03.31	3棟	谷口善志郎
P	伝統的建造物群保存地区 湯浅伝建地区保存修理技術指導	有田郡湯浅町湯浅	2015.05.23～ 2016.03.18	—	湯浅町
Q	史跡 丹生都比売神社輪橋保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町天野	2015.06.01～ 2016.03.31	1棟	宗教法人 丹生都比売神社
R	史跡 旧名手本陣整備事業南西面土塀等整備工事設計監理支援	紀の川市名手市場	2015.06.04～ 2016.03.31	1棟	紀の川市
S	善名稱院本堂図面作成業務	伊都郡九度山町 九度山	2016.01.15～ 2016.02.10	1棟	九度山町文化財活用地域活性化事業実行委員会
T	妙楽寺楼門図面作成業務	橋本市東家	2015.09.01～ 2015.10.31	1棟	宗教法人 妙楽寺
U	山本家住宅現況調査技術支援	有田市港町	2015.12.01～ 2016.02.29	1棟	一般社団法人和歌山県 建築士会有田支部

平成27 (2015)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理



文化財建造物の保存修理



## 田屋遺跡の発掘調査

遺跡の時代：古墳時代・奈良時代・平安時代・鎌倉時代  
所在地：和歌山市田屋  
調査の原因：紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業  
調査期間：2015.12～2016.03  
調査コード：15-01・093

### はじめに

田屋遺跡は、和歌山市田屋・小豆島周辺に所在する。東西約1km、南北約750mの範囲をもち、弥生時代から古墳時代にかけての大規模な集落遺跡として周知されている。紀ノ川の河口より約9km上流北岸の沖積平野部の氾濫原に位置し、標高は6m前後を測る。周辺の遺跡には東に西田井遺跡が位置し、さらに北東部には北田井遺跡、宇田森遺跡等の弥生時代から古墳時代を中心とする遺跡が所在する。

### 調査の経緯

和歌山県により計画された県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良工事の予定地の一部が、周知の埋蔵文化財包蔵地である田屋遺跡の範囲に該当したことから、試掘確認調査を経て今回の調査となった。

現地での発掘調査は平成27年12月26日から平成27年3月8日にかけて実施した。

### 調査の成果

今回の調査区では、1区の北部の一部を除いて遺構密度が低く、建物跡などの生活の痕跡は確認できな

かった。その中で、調査区の北西隅では、微高地の西側で現在の六箇井用水の支流とほぼ同じ方向に向かう溝が検出された。その埋土から奈良時代前半のものと思われる格子印文平瓦の破片が出土した。

調査区南側では、幅約15mに及ぶ自然流路を検出した。これは調査区の東北東から西南西に向かうものと思われる。和歌山市教育委員会が平成27年度に行なった試掘確認調査によれば、今回の調査地の東側約100mには低湿地もしくは自然流路が存在し、それは県教育委員会の平成13年度調査地において検出された自然流路に続くものと推定される。

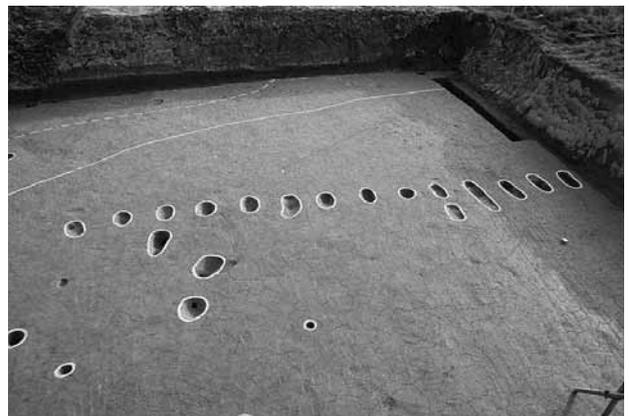
また、東側の隣接地には微高地が存在し、竪穴建物が3棟検出されている。このことから自然流路は微高地の南側と北側に分岐しており、北側の流れが今回の調査地内で検出されたと考えられる。その北側肩部周辺では土坑列が検出され、その北東部にも土坑群が検出されている。遺物が出土していないため、土坑列・土坑群の性格、時期は不明であるが、既往の調査の成果から道路状遺構の可能性がある。

調査区中央は遺構密度が低く、土坑群なども検出されていないが、その埋土にも遺物が少ないため、時期の特定が困難である。その中でも北北西から南南東に向かう溝と畦畔とみられる高まりは、調査区周辺が田畑であったことをうかがわせる。

今回の調査区周辺には、現在においてもバイパス南側には集落が存在し、田畑が広がっているが、古墳時代においても調査地周辺には生産域が展開しており、居住区は北側、あるいは南側の微高地に集中していたものと考えられる。  
(土井 孝之)



1区 北端 古代～中世の溝（南東から）



2区 南端 土坑列（北東から）

## 寺内古墳群、相方遺跡の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代・古墳時代・奈良時代・中世  
所在地：和歌山市森小手穂  
調査の原因：和歌山橋本線改良及び和歌山南 IC 建設工事  
調査期間：2015.12～2016.03  
調査コード：15-01・187、15-01・440

### はじめに

寺内古墳群は、和歌山市の東南部、岩橋山塊の南斜面、岩橋前山古墳群の南に派生する支脈及び大日山の南山麓部に広がる、東西 1km、南北 1.5km の範囲で、33 基の円墳よりなる古墳群である。一方、相方遺跡は、今回の調査に先立ち実施された試掘確認調査により新たに発見され、認定された遺跡で、その範囲は南北 150 m、東西 100 m ほどの丘陵裾部に展開する古墳時代から中世にかけての散布地と考えられる遺跡である。

### 調査の成果

弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴建物 5 棟のほか、この時期の溝、土坑などを検出した。竪穴建物については、いずれも後世の削平により過半数を欠いており、その全容については不明である。

また、古代末から中世前半に帰属すると考えられる掘立柱建物を検出した（巻頭写真 1）。この建物は、東西 2 間、南北 6 間を測るもので、東側に半間の庇がつく。柱掘形の径は 40cm 前後で、深さは 30cm 前後、柱間は、東西が 2.1 m、南北が 1.9 m を測る。南



調査地遠景（西側上空から）

北列の両サイドの柱列が整然とした並びであるのに対して、中央の柱列がやや不揃いである。仔細に見れば、北側 1 間分と南側 1 間分の柱並びはしっかりとしており、かつ柱穴も深い。このことから建物の上部構造は入母屋ないし寄棟であったことが想像される。

### まとめ

今回の調査は、寺内古墳群に含まれつつも古墳が存在する丘陵尾根部ではなく、丘陵裾部の比較的平坦面となっている箇所であり、事実上、新規に発見された相方遺跡に帰属するものと言えよう。

この相方遺跡については、古墳時代から中世にかけての遺物散布地という認識であったが、今回の調査成果によって時代の幅が広まり、弥生時代後期から始まるもので、集落跡となる可能性が高いことが判明した。

とりわけ古代末から中世初めに建物が出現し、この時期の遺物量が多いことが特徴である。

この時期は、当該地の所領領主であった日前宮が、東側に所在していた根来寺領である山東荘の開発に対抗するため宮井新溝を開削するなどの時期に相当する。

今回見つかった建物が直接的にはどのような役割を担ったものかは不明だが、時期的なものを考慮すれば、こうした一連の動きと連動して生じた事象のひとつであった可能性も考えられよう。

以上のほか、古代瓦や埴輪片が少量ながらも確認されているが、こうした遺物がこの遺跡とどのように結びつくのかなどは、現段階では不明といわざるを得ない。幸い、当該地付近については、今後も調査が実施される可能性が高く、その場合こうした課題を念頭において調査に当たる必要があろう。（村田 弘）



竪穴建物跡（西から）

## 藤並地区遺跡の発掘調査

遺跡の時代：奈良時代、中世  
所在地：有田郡有田川町天満・水尻地内  
調査の原因：一般国道42号（湯浅御坊道路）4車線化事業  
調査期間：2015.11～2016.03  
調査コード：15-21・032-1

### はじめに

今回の調査は、平成27年11月から平成28年3月までの期間に一般国道42号（湯浅御坊道路）4車線化事業に伴い、有田川町天満・水尻地内で699㎡を対象に発掘調査を行った。

藤並地区遺跡は、有田川河口から約10km遡った左岸に位置し、標高が20m付近にも関わらず、盆地状の湿地に近い条件下に位置している。

藤並地区遺跡は、過去の調査において旧石器から中世までの遺構や遺物が確認されている。

### 調査の成果

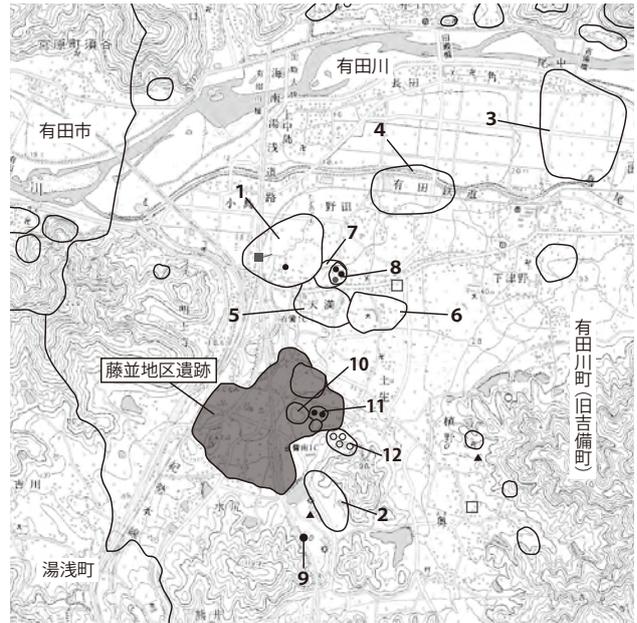
調査は1・5・8・11区の4区画に分けて行った。

1区では、周辺の調査事例と同様に遺構が希薄であったが踏み込み状遺構を1基検出している。

5区では、調査区の大半が近現代の粘土採掘土坑により攪乱されている。遺物は粘土採掘土坑の底から弥生土器片が1点出土している。粘土採掘土坑は、壁断面で見ると9区画に分かれるようであり、順番に採掘と埋戻しを行っているようである。昭和30年代まで隣で瓦屋が操業しており、材料の粘土を周辺で採



5区南側 東壁土層断面（北西から）



遺跡位置図

掘していたようであり、埋戻した土から近現代の瓦が出土している。

8区では、調査区の大半が奈良時代～中世の自然流路であり、その下からは奈良時代の溝を検出している。自然流路からは瓦器椀・土師皿・瓦・須恵器が出土しており、溝からは瓦と須恵器が出土している。

11区では、調査区の大半が時期は不明であるが土取りなどにより削平を受けている。遺物は瓦器椀・須恵器・サヌカイト剥片が出土している。

調査区西側の高速道路本線部分で調査を行った際には、掘立柱建物や流路などが検出されており、生活の痕跡を多く確認しているが、西側ほど遺構が希薄になっていた。現地形でも高速道路本線から西に緩やかに下り、また南から北に向かっても緩やかに下っていく。このことから、今回の調査地は集落などの縁辺部にあたると考えられる。（山本 光俊）



8区南側 全景（北から）

## 新宮城跡、新宮城下町遺跡の第1次発掘調査

遺跡の時代：鎌倉時代～江戸時代  
所在地：新宮市下本町  
調査の原因：新宮市文化複合施設建設  
調査期間：2016.01～2016.06  
調査コード：15-43・007、15-43・043

### はじめに

新宮市文化複合施設建設により、国指定史跡である新宮城跡の東隣接地が大規模に開発されるのに伴い、試掘調査が実施された（年報16頁参照）。その結果、開発予定地のほぼ全面に中世から江戸時代の遺構が存在することが確認されたことから、本発掘調査が実施されることになった。調査は新宮市の委託を受けて、本年度から次年度を跨いで実施している。

### 新宮城の概略

新宮城は、関ヶ原の戦いの後、紀州藩主となった浅野幸長の重臣である浅野忠吉が慶長六年（1601）に築城を開始した。元和元年（1615）に一国一城令により廃城となるが、元和四年（1618）に再び築城が認められる。しかし、元和五年（1619）に幸長が広島に転封になるのに伴い、紀州藩主には徳川頼宣がなり、新宮城には付家老である水野重仲が入り築城を続ける。二代重良は伊佐田の堀を掘削するなどして、寛永十年（1633）に完成した。城下町も、江戸時代の前半頃には、幕末に近い町割りとなっていたことが古絵図などから窺うことができる。



調査区全景（上空から）

### 調査の成果

調査では、これまでに城下町の南北に延びる道路と、その両側に造られた武家屋敷が数区画見つかった。

道路は、江戸時代に「河原町通り」と呼ばれていたもので、幕末頃から近代にかけて嵩上げしたことが明らかになっており、昭和21年頃まで使われていた。古い時期の道路の構築は、江戸時代初期に遡るものと考えられ、掘割状となって屋敷地より一段低くなる。両側には石で区画した溝を伴っており、東の溝の方が高く築かれている。道路幅は側溝を含めて5.5mを測り、表面は1～5cm程度の円礫を敷いて敲き締めている。

屋敷を区画した石垣は、幕末に描かれた古絵図と対応するように見ついている。場所によって積み方が異なり、東屋敷地の道路に面する石垣や西屋敷地の北側を区画する石垣に大きな石材が用いられている。なかでも、西屋敷地北側の石垣は高さが1.3m程度あり、構築された時期が江戸時代初期に遡ることが指摘されている。

屋敷地内からは、石組み土坑や集石遺構などが見つかったが、削平されて礎石等は残っておらず、建物配置等は明らかでない。

### まとめ

屋敷地の区画は、城内部と変わらない様な重厚な石垣で、熊野川沿いで調達できる花崗斑岩をふんだんに使用しているのが大きな特徴である。これらは城下町の街路計画を窺う好資料であるとともに、城下町の構造を知るうえで重要な発見と言える。

今後、下面の調査を実施する予定で、中世の面の下には、更に縄文時代の遺構面が存在することも明らかになっている。（川崎 雅史）



西屋敷地北側の石垣（北西から）

## 平井遺跡、平井Ⅱ遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代・古墳時代・奈良時代・鎌倉時代

所在地：和歌山市平井

調査の原因：第二阪和国道建設

整理期間：2015.06～2016.03

対象コード：12-01・437、12-01・437-2、13-01・437、  
13-01・437-2、13-01・399、13-01・399-2、  
14-01・399、14-01・399-2

### はじめに

調査で出土した遺物は、調査報告書作成に伴い洗浄・注記・接合、遺物充填材による補強・復元、実測の一連の整理作業を行った。現地調査の遺構図面は、レイアウト図面原稿を作成し、トレース作業を行った。遺構写真については撮影記録記載等の整理を行った。

### 出土遺物の基礎的な整理作業

出土遺物の内、土器・埴輪類は、通常の遺物収納コンテナ(容量28ℓ)にして392箱ある。その他、石器(石製品)・金属器(金属製品)・木器(木製品)等がある。土器・埴輪は、調査現場での応急整理作業で整理済みの物を省いて、洗浄作業、木製品の再洗浄、金属製品の錆取り作業、遺物に調査コードと出土遺物登録番号の注記作業・接合作業を行った。

#### 主要遺物を対象とした整理作業

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材による補強・復元作業(写真)・遺物実測(写真)・実測遺物台帳登録・遺物実測図の整理、各々の遺構・整



遺物充填材による遺物(埴輪)の復元作業

地土・堆積層の時代・性格の理解に必要と思われるものを抽出して調査報告書に掲載するトレース図面原稿を作成した。

### 遺構図面の整理

現地調査の遺構図面については、多次数にわたる調査で作成した記録図面の中から抽出した遺構図面のレイアウト図面原稿を作成し、トレース作業を行った。出土遺物の内容登録作業

遺物は、土器類などコンテナ392箱と石器・金属製品・木製品を対象に、遺物の種類・器種等を出土遺物登録番号毎に数量化して内容登録を行った。

### 整理の成果

複数回の調査により得られた遺構・遺物の情報は、弥生時代中期から古墳時代・奈良時代・鎌倉時代・江戸時代と、多岐にわたることが判明してきた。これらの中でも、特に弥生時代中期の竪穴建物跡と方形周溝墓、古墳時代中期の初期須恵器、古墳時代後期の埴輪窯と埴輪、古墳時代終末期の古墳と遺物群、奈良時代の掘立柱建物跡と遺物包含層から出土した様々な遺物群は目を見張るものがある。

今回の整理作業では、平井遺跡第1次調査で検出・出土した古墳時代後期前半の2基の埴輪窯とその周辺から出土した埴輪が整理の主体となった。埴輪窯と周辺から出土した埴輪には、円筒埴輪を始め、各種の形象埴輪がある。形象埴輪には、蓋、家、人物、動物(馬・鶏)、盾・石見型、胡録、双脚輪状文などを認めている。

(土井 孝之)



出土遺物の実測作業(土器)

## 和歌山城跡の第2次出土遺物等整理

遺跡の時代：近世・近代  
 所在地：和歌山市二番丁  
 調査の原因：和歌山地方合同庁舎新築  
 整理期間：2015.05～2016.03  
 対象コード：13-01・379

### はじめに

平成25年度に実施した和歌山地方合同庁舎新築工事に伴う和歌山城三の丸の発掘調査の出土遺物等整理事業を平成26年度、27年度の2カ年に渡り実施した。

平成26年度には基礎整理作業として遺物の洗浄、注記、接合・補強、復元等の一連の作業を行い、これらの作業と並行して、報告書に掲載する遺構・遺物の図面作成や出土遺物の実測作業も行った。

また、これらの作業については、調査で確認した遺構面は4面あり、整地土（第1～4層）の区分及び遺物の種類（陶磁器・瓦類・木製品・金属製品・石製品）によって分類し、整理作業を進めた。

### 平成27年度の作業経過

まず、最初に出土遺物の登録作業を行った。登録作業は平成25年度の発掘調査で出土したコンテナ238箱について行い、土器類は国産陶器、国産磁器、土師質土器、瓦質土器、土師器、その他（中国製等）に分類し、瓦類は軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、軒棧瓦、棧瓦、道具瓦に分類し、その破片数を数え登録台帳を作成した。他に金属製品、木製品、石製品、土製品についても行った。



遺物登録作業

平成26年度の継続作業として、報告書に掲載する遺物の実測作業、遺構・遺物図面のトレース作業を行った。遺物図版に掲載する近世の陶磁器類はトレース図の内外面に撮影した図柄を貼りつける必要があるため、デジタルカメラを用い、1つの遺物についてサイドや俯瞰の多方面から撮影した。

次に、各面毎の遺構図と遺物の版組を行い、これについての原稿を付し1面調査の体裁とした。従って、今回の調査で検出した遺構面は4面のため、第1面～第4面までを上記の体裁でレイアウトを行った。

掲載した遺物については、遺物観察表を作成し、地区、層位、遺構名、産地、遺物の種類・器種及び法量を明記し、末欄に調整等の観察結果を記した。

木製品は大型土坑や廃棄土坑から多量に出土しているが、保存処理を必要とする43点を選定して、木製品中の水分をポリエチレングリコール液に長時間浸すことによりポリエチレングリコールに置換するポリエチレングリコール（PEG）含浸法を用いて処理を行った。なお、この作業は専門機関に委託し、これについての業務内容（処理工程・樹種同定・漆塗膜）を記した調書も報告書に掲載した。

### 終わりに

今回の調査では多量の土器類が出土した。その中でも特に和歌山城築城当初の16世紀末から17世紀初頭にかけての遺物は、調査地が三の丸の重臣屋敷が建ち並ぶ一角だけに、町屋ではあまり出土しないような織部・志野などといった美濃窯や、中国製磁器などが一定量出土している。（佐伯 和也）



トレース・遺物実測作業

## 川辺遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：古墳時代～近世  
所在地：和歌山市川辺  
調査の原因：都市計画道路西脇山口線道路建設事業  
整理期間：2015.06～2015.11  
対象コード：14-01・145

### はじめに

川辺遺跡は都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴い、平成26年10月から平成27年3月にかけて発掘調査を行った。調査面積は820㎡で、古墳時代から近世にかけて3面の遺構面の調査を行った。

調査の結果、1面目では調査区南東部で微高地の縁辺部を確認している。2面目では東西に走る溝を確認しており、3面目では水田面を確認している。

### 作業の概要

整理作業は、平成27年6月から11月にかけて発掘調査で出土したコンテナ（容量28ℓ）8箱分の遺物を対象に行った。

遺物全点を対象に洗浄作業を行った後、登録作業を行い、遺物内容を確認して一覧表を作成した。注記作業、遺物の接合、遺物充填材（キューテックス）による補強・復元作業を行い、遺物を県教育委員会に移管するために遺物収納コンテナに再整理し、収納とともにコンテナ表面に必要事項を記載したシールを張り付けた。

遺物の注記以降の作業と並行して、遺物実測、遺物・

遺構トレースを行い、これらをレイアウトして図面原稿の版下を作成した。

報告書掲載遺物についてはデジタルカメラを用いて撮影し、主要な遺構写真とともにレイアウトし、写真図版を作成した。

掲載遺物については、遺物観察表を作成し、一連の作業を踏まえて本文執筆を行い、報告書を刊行した。

### 整理作業の成果

これまでに調査が行われた、一般国道24号和歌山バイパスの建設に伴う発掘調査では、縄文時代～中世にかけての集落や墓などが発見されており、県道和歌山貝塚線の工事に伴う発掘調査では、弥生時代～中世にかけての集落や墓などが発見されている。これらの調査地の場所が集落の中心地であったと想定され、今回の調査区南東部の高まりは、集落の存在した微高地の縁辺部にあたる場所と考えられる。出土遺物の量がこれまでの調査に比べて少ないのも、集落の中心から、やや離れていることに起因すると考えられる。出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器等があり、微高地である調査区南東部から多く出土している。出土遺物の大半は中世の時期であり、包含層出土遺物は少なく、溝・土坑から出土した遺物が多くを占める。鎌倉時代の土坑からは当時の食器類が一揃い出土し、完形品も多く出土しており、素掘り井戸と考えられる。古代の土坑からは1個体の須恵器壺が土坑内に4ヶ所に分かれるような形で出土しており、祭祀等に関係する可能性が考えられる。

調査区付近は中世前半頃から水田域となるが、それ以前は集落の縁辺部であった事が確認された。

（山本 光俊）



遺物収納作業



遺物復元作業

## 根来寺遺跡、山口古墳群墳群の 出土遺物等整理

遺跡の時代：中世～近世

所在地：和歌山市山口 岩出市根来

調査の原因：一般国道 24 号京奈和自動車道建設

整理期間：2015.8～2016.2

対象コード：11-11・016-1、12-11・016-2、  
13-11・016-3、13-01・138

### はじめに

真義真言宗の総本山として知られ、中世後期には、わが国屈指の寺院集団として勢力を誇った根来寺遺跡では、京奈和自動車道の建設に伴い平成 23 年度から 3 年次にわたって発掘調査が実施された。また同じく和歌山市東部の山稜に所在する山口古墳群においても平成 25 年度に発掘調査が実施された。

### 作業の概要

当業務は、これらの発掘調査で出土した出土遺物や現地で記録した写真・図面等について 2 年次にわたって整理作業を行い、報告書を刊行するためのものであり、本年度は、その 1 年目に当たる。なお、山口古墳群においては、本来の古墳は確認することができなかったものの、経塚の一種である礫石経の埋納遺構が見つかっており、この礫石経を整理の対象としている。

出土遺物の内、土器類は、通常の遺物収納コンテナ（容量 28ℓ）にして 77 箱である。その他、瓦類が 50 箱、五輪塔・経石などの石造遺物、銭貨などの金属製品がある。



遺物注記作業

土器の洗浄作業については、現地調査時の応急整理で大半済ませており、今回の整理業務では、残りの 25 箱について洗浄作業を実施した。すべての洗浄作業が完了した後、個々の遺物について調査コードと出土遺物登録番号を注記する作業からはじめ、その後接合作業を行った。

こうした基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材による補強や復元作業を行い、報告書に掲載が予定されている土器については、実測作業も行った。さらに実測の終わった土器についてトレース作業を行い、遺物実測図の仮レイアウトまで進めた。

また、現地調査において記録した遺構図面については、抽出した遺構図面のデジタルトレース作業を実施したのち、調査報告書に掲載するレイアウト図版の作成作業も行った。遺構写真については、現地調査で撮影した遺構写真から主だったものを抽出して次年度の図版レイアウトの下準備を行った。（村田 弘）



土器復元作業



拓本作業

## 西渋田遺跡、東渋田遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代、古墳時代、中世  
所在地：伊都郡かつらぎ町西渋田・東渋田  
調査の原因：和歌山橋本線道路改良  
整理期間：2015.5～2015.9  
対象コード：11-07・029、13-07・007

### はじめに

当業務は、平成23年度に実施された西渋田遺跡及び同25年度に実施された東渋田遺跡の発掘調査報告書を作成するために実施した整理作業である。

出土遺物は、通常の遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして合計36箱である。大半が土器であるが、石鏃などの石器や銭貨なども含まれていた。

### 作業の概要

土器の洗浄作業については、すべて現地調査時の応急整理で済ませており、今回の整理業務では、個々の遺物について調査コードと出土遺物登録番号を注記する作業からはじめ、その後接合作業を行った。

こうした基礎的な作業を経た後、報告書に掲載が必要と判断した主要遺物を対象に、遺物充填材による補強や復元作業を実施した。

さらに報告書に掲載が予定される遺物について実測作業を行った後、これらについては個々にロットリングペンによるトレース作業を行い、これらをレイアウトし、遺物図版の作成を行った。



遺物復元作業

また、現地調査において記録した遺構図面については、全体図・個別遺構ごとに整理抽出したものをデジタルによるトレース作業を実施し、調査報告書に掲載するレイアウト図版の作成作業も行った。

遺物写真については、実測及び補強・復元終了後に撮影を実施し、遺構写真とともに図版レイアウト作業を行った。

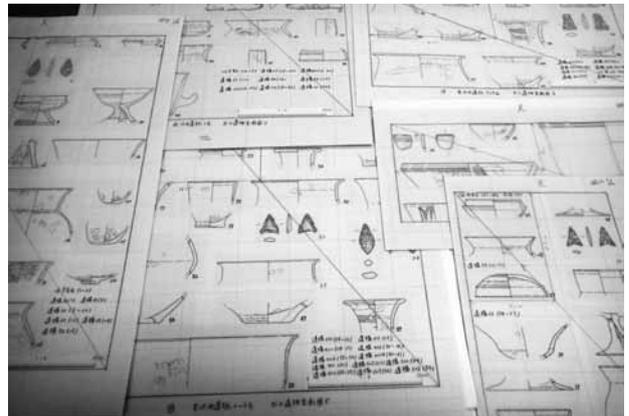
そのほか実測遺物観察表や遺物台帳登録等の各種データを整理し、パソコンに入力しデジタルデータを作成した。こうした一連の作業と平行して本文の執筆作業を進め、報告書を刊行した。

なお、報告書掲載遺物については、今後の資料活用等に備えて別途報告書掲載順に収納する作業を行った。

(村田 弘)



遺物写真撮影作業



遺物図版レイアウト

## 木津遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：鎌倉時代・室町時代  
 所在地：海南市木津  
 調査の原因：国道 424 号道路改良事業  
 整理期間：2015.06～2015.09  
 対象コード：14-02・053

### はじめに

平成 26 年度に実施した木津遺跡の発掘調査では、瓦を始め、多くの遺物が出土した。調査で出土した遺物は、調査報告書作成に伴い洗浄・注記・接合、遺物充填材による補強・復元、実測・トレースの一連の整理作業を行った。現地調査の遺構図面は、トレース・レイアウト作業を行い、遺構写真については遺構写真図版などを作成した。

### 出土遺物の基礎的な整理作業

出土遺物の内、土器類・瓦類は、通常の遺物収納コンテナ（容量 28ℓ）にして 45 箱である。その他、石器・金属製品がある。土器・石器は、遺物登録作業を行った後、調査現場での応急整理で整理済みのものを省いて洗浄作業・遺物に調査コードと出土遺物登録番号の注記作業・接合作業（写真）を行った。

### 主要遺物を対象とした整理作業

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材による補強・復元作業・遺物実測・実測遺物台帳登録・遺物実測図版レイアウト・遺物実測図の整理・トレー



遺物（瓦）の接合作業

ス作業・レイアウト図版作成、遺物写真撮影、各種データ等のパソコン入力を行った。

遺物写真撮影を行ったものから写真を抽出して調査報告書に掲載する遺物写真図版を作成した。

### 整理の成果

#### 鎌倉時代の遺物の特徴

瓦は焼成が甘く、磨滅気味であるが、軒平瓦、軒丸瓦が出土している。該当期の瓦器椀が多量に出土しているが、細片が主体となるため時期判定の可能なものは少量である。

#### 室町時代の遺物の特徴

瓦は焼成が良好なものが多く、品質が良いものが出土している。少量ではあるが国産陶器や中国製青磁が出土している。

### まとめ

大量の瓦が、周辺の瓦葺きの建物の存在を示唆するが、今回の調査範囲では見つからなかった。瓦はだまかに 13 世紀中頃～14 世紀初頃のもの、14 世紀中～末頃のものに大別される。土器に関しては 13～15 世紀のものが出土している。7 棟確認できた掘立柱建物跡の柱穴の埋土からは、焼けた壁土や炭が出土していることから火災があった可能性がある。掘立柱建物跡は、今回未確認の瓦葺きの建物に付随するものと考えられ、遅くとも 13 世紀の中頃までには存在していたものと考えられる。何回かの建て替えを経て、15～16 世紀初頃に廃絶に至ったものと考えられる。

（土井 孝之）



遺構写真の整理作業

## 小松原Ⅱ遺跡、湯川氏館跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代  
所在地：御坊市湯川町小松原  
調査の原因：湯川中学校改築工事  
調査期間：201504～201603  
対象コード：13-24・024、13-24・025

### はじめに

発掘調査は、御坊市の委託を受け、文化財センターが平成25年度に面積3,783㎡を対象に実施した。調査では、弥生時代中期の集落や古代の溝、鎌倉時代の井戸、室町時代の湯川氏館跡に係る堀・井戸・池、江戸時代の土坑などを検出し、各期の遺物が多量に出土した。

### 整理業務の概要

報告書作成に伴う出土遺物等整理業務は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』2006に準拠し、発掘調査で出土した土器・瓦・石器・金属製品と木製品を対象に実施した。数量は土器類が遺物収納コンテナ（容量28ℓ）164箱、木製品が遺物収納コンテナ33箱と大型水槽に1箱分である。これらの遺物について登録・注記・接合・実測・トレース・拓本・写真撮影などの作業を実施した。なお、遺物の洗浄作業は、発掘調査と並行して応急整理で実施済みであった。

一連の作業を行いながら報告書用の原稿を執筆し、報告書作成・刊行を行った。また、これらと並行して



弥生土器（台形土器）の実測作業

実測図や写真の整理、各種台帳の作成を行った。このほか、木製品等の保存処理を業者委託で実施している。作成した報告書は、本文117ページ、写真図版55ページ（巻頭図版含む）である。

### 整理業務の成果

弥生時代の遺構から出土した遺物は、凹線文を多用する中期後半頃を中心とすると判断できる。中期中葉以前や後期の遺物が出土していないことから、調査区付近では比較的短期間で集落が営まれていたことが窺える。集落が途絶えるのと整合するように高地性集落である亀山遺跡が出現することも注目される。

鎌倉時代の遺物には、瓦器や土師器などの土器類とともに、角塔婆などが出土しており、当期には寺院が存在したことが窺える。「常楽記」に記された九品寺の可能性も考えられる。

出土した瓦のなかに南北朝時代に遡るものがあるが、これらは鎌倉時代から続く寺に帰属するもので、湯川氏館が築かれるのは、それ以降であると推定できる。見つかった館の遺構は、大きく3時期に分けることができ、最終段階で東西約225m、南北約200mの規模になることが窺える。この段階で、瓦葺の建物が建てられたことが想像でき、それ以前の館の建物は、室町第（花の御所）に倣い檜皮葺であった可能性がある。池泉を伴う庭園は館の南東部に位置し、その北側には堀で囲まれた方形区画がある。出土遺物の傾向から、この方形区画北側に土師器皿を多用する儀式をおこなう主殿が、池に面する南側に輸入陶磁器などの高級品を使用した会所が存在したことが予想できる。建築部材や瓦には焼けたものが多く、館が火災に遭っていることが窺える。

（川崎 雅史）



庭園の池出土の陶磁器

## 岩橋千塚古墳群の発掘調査等支援

遺跡の時代：古墳時代

所在地：和歌山市下和佐・吉礼・西・鳴神地内

調査の原因：特別史跡追加指定

調査及び整理期間：2015.4～2015.11

### はじめに

和歌山県が岩橋千塚古墳群追加指定に伴い大谷山22号墳、天王塚古墳の確認調査を実施するのに伴い、当センターはその一部の作業を発掘調査等支援業務として受託した。今回の支援業務は、平成26年度に引き続き、大谷山22号墳の出土遺物整理及び天王塚山古墳第2次発掘調査等について、実施した。

業務内容は、和歌山県教育委員会文化遺産課職員の監督のもと、発掘調査及び出土遺物等整理について支援を行った。

### 業務内容

天王塚山古墳の発掘調査支援では、発掘作業に係る準備作業、人力掘削、図化及び写真撮影を行った。

後円部に1箇所、前方部に2箇所、南側くびれ部に1箇所の計3箇所のトレンチを設定して発掘調査を実施し、各トレンチで墳丘裾を検出した。発掘調査終了後、出土遺物の洗浄・注記・接合、登録、実測、トレース等を実施した。

大谷山22号墳では、平成26年度実施発掘調査の出土遺物等の接合、復元、実測、トレース等を実施した。



古墳位置図

主な整理対象の出土遺物は、円筒埴輪のほか人物埴輪、盾形埴輪等の形象埴輪、弥生土器、須恵器等である。

これらの発掘調査等支援業務に伴い、当センターの技術職員3人が従事するとともに、調査補助員8人、発掘作業員88人、整理補助員62人、整理作業員10人余りを雇用して、本業務に従事した。

### まとめ

和歌山県教育委員会の発掘調査報告書によると、調査成果の概要は以下のとおりである。

天王塚山古墳は、発掘調査の結果、明確な外表施設は認められないものの、2段築成以上の前方後円墳で全長88mを測る県内最大規模の前方後円墳であることが確認された。

大谷山22号墳は、出土遺物等整理の結果、埴輪と土器の出土が確認され、出土した須恵器の型式から大谷山22号墳の築造時期は古墳時代後期前半に比定されることが確認された。

(土井 孝之)

(参考文献) 和歌山県教育委員会 2016『大谷山22号墳、天王塚山古墳—特別史跡岩橋千塚古墳群追加指定に伴う発掘調査報告書—』



天王塚古墳 1 トレンチ全景



大谷山22号墳 出土遺物

※ 掲載写真は、和歌山県教育委員会提供

## 佐野廃寺の出土遺物整理支援

遺跡の時代：奈良時代  
所在地：伊都郡かつらぎ町佐野  
調査の原因：史跡整備  
調査期間：2013・2014  
対象コード：SY-2013、SY-2014（かつらぎ町方式）

### はじめに

かつらぎ町教育委員会が実施する整理業務の支援を行った。業務の実施に当っては、かつらぎ町の担当職員と協議し、その指示を受けて実施した。

実施した整理業務の内容については、下記のとおりである。

かつらぎ町の発掘調査で出土した佐野廃寺の遺物の整理作業を行った。整理作業の内、出土遺物の登録・登録2作業及び注記作業を実施した。

### 出土遺物への注記作業

出土遺物の内、瓦・土器類は、通常の遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして25箱である。その他、石器・

金属製品がある。出土遺物（瓦・土器・石器）の洗浄作業はかつらぎ町において既に完了しており、細片を省く全遺物を対象として遺跡略号「SY」と出土遺物登録番号「1・2・3・・・」の注記作業を行った。

### 登録2作業：出土遺物登録台帳の作成

全遺物を対象として、かつらぎ町により遺物ラベルが付された出土遺物登録番号順に出土遺物登録台帳を作成した。追加作業として、出土遺物登録台帳のデジタルデータを作成した。

### 登録作業：出土遺物内容登録作業

また、全遺物を対象として、出土遺物登録台帳を利用して遺物の内容について破片数を記録した。出土遺物内容登録台帳についてもデジタルデータを作成した。

### 遺物の内容

作業を行った遺物には、奈良時代の瓦（軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・鴟尾）を始め、弥生時代後期から終末期の土器・石器、奈良時代の土師器・須恵器、鎌倉時代の土師器・瓦器、江戸時代の土師質土器・陶磁器等が少量ある。  
(土井 孝之)

## 金剛峯寺遺跡の発掘調査・出土遺物等整理支援

遺跡の時代：中世～近世  
所在地：伊都郡高野町高野山  
調査の原因：清浄心院鳳凰奏殿・永山帰堂新築工事  
支援期間：2015.11～2016.3

宗教法人清浄心院において鳳凰奏殿・永山堂新築工事が計画され、確認調査がなされることになった。

調査については、本来高野町教育委員会が実施するところであったが、埋蔵文化財専門職員が不在であったため和歌山県教育委員会に依頼し、この支援業務として当センターが高野町教育委員会から委託を受けて実施したものである。

支援内容としては、現地での調査期間中、延べ9人の技術職員を派遣し、機械掘削深度の指示をはじめ遺構検出作業、写真撮影等を行った。また、調査終了後

は、当センターにおいて整理作業員・整理補助員を雇用し、出土遺物整理として洗浄・注記から遺物実測及びトレース等の一連の作業を実施した。

また、現地で記録した遺構実測図についても整理を行った後デジタルトレースを行い、実績報告書作成のための図版を作成した。

なお、確認調査報告書については、調査主体者である和歌山県教育委員会が作成している。

(村田 弘)



確認調査状況

## 亀山城跡の測量調査等支援

遺跡の時代：室町時代

所在地：御坊市湯川町丸山

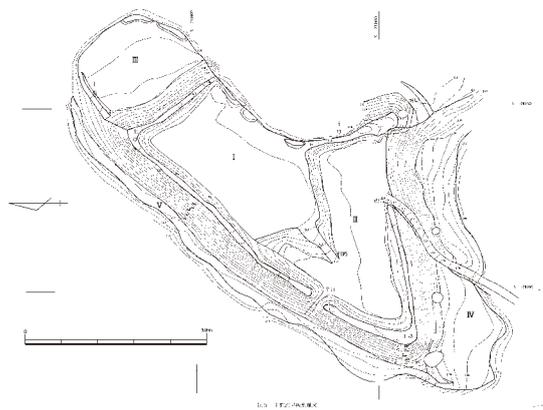
調査の原因：県指定史跡にむけての基礎資料作成

調査期間：2015.04～2015.05

御坊市教育委員会は、湯川氏の居城であった亀山城跡を県指定史跡にすることを前提として、基礎資料を作成するために城跡の地形測量を計画した。その業務支援を当センターが、御坊市教育委員会の委託を受けて実施した。業務は、主郭部を中心に平板により地形測量することと、城の範囲を把握するための城全体の縄張り図作成である。

これらの作業により、亀山城跡は、これまでの認識とは違って畑の開墾により一部破壊されているものの、比較的良好に残存していることが明らかになった。亀山城跡の構造は、標高 122 m の亀山の頂上付近に大規模な土塁や高い切岸を巡らした 2 段からなる主郭

部を置き、頂上部からひだ状に派生する幾つもの小尾根部や斜面地に、山を取り巻くように曲輪を階段状に配している。曲輪を配する範囲は、県下最大規模で、防御は尾根筋を切断する堀切などなく、長く伸びる曲輪に頼るものである。総曲輪面積が広いことや、周囲が長いことは、必然的に城に動員できる兵が多かったことの証左でもあり、湯川氏の家臣の多さ・兵力を物語るものである。  
(川崎 雅史)



亀山城跡測量図

## 新宮城跡の試掘調査支援

遺跡の時代：鎌倉時代～江戸時代

所在地：新宮市下本町・新宮

調査の原因：新宮市文化複合施設建設

調査期間：2015.07～2015.08

新宮市が計画している文化複合施設の予定地が、古絵図等から新宮城下町の武家屋敷であることが予想され、遺構の有無等を確認するための試掘調査を、新宮市の委託を受けて実施した。

調査は、旧丹鶴小学校グラウンドとその周辺部分を対象とし、幅約 1.5 m、長さ約 5.0～18.0 m のトレンチを 11 箇所設定した。

調査では、複数の遺構面と江戸時代と中世の遺構を確認し、遺物では弥生時代以降の多種の土器類が出土した。

江戸時代の遺構としては、道路状遺構や武家屋敷を区画すると考えられる石垣や石列などを検出した。道

路状遺構は、古絵図に描かれた位置とほぼ同じで、城下町の遺構が残っていることが明らかになった。

中世の遺構には、土坑や柱穴・溝状遺構などがあり、城下町になる以前の調査区付近の土地活用を窺う資料と言える。

これらの成果を受けて、本発掘調査が実施されることになった。  
(川崎 雅史)



4 トレンチ 石垣等検出状況（北から）

## 重要文化財 広八幡神社本殿ほか 5棟の保存修理

建築年代：本殿、摂社若宮社本殿、摂社高良社本殿  
楼門（室町時代）

摂社天神社本殿、拝殿（江戸時代）

所在地：有田郡広川町上中野

修理の種類：屋根葺替、塗装工事、部分修理、耐震診断

修理期間：2014.11～2016.10

### 事業の概要

3ヶ年事業の2年目にあたる本年度は、前年度に着手した摂社高良社本殿、摂社天神社本殿の檜皮屋根葺替と塗装工事、楼門の塗装工事を完了した。引き続き本殿と摂社若宮社本殿の檜皮屋根葺替と塗装工事に着手し、完了した。3月からは、今回の6棟の修理対象として最後に残った拝殿の工事に着手し、柿屋根葺替と塗装工事を進めた。

### 各社殿の檜皮、柿屋根工事

前回（昭和54年）の施工から35年以上が経過し、平葺の摩耗が進み葺き替えが必要となっていたが、旧屋根を解体して下地などの状態を確認したところ、全ての建物で予想以上に健全な状態であり、予定していた軒積の積み直しや野地の補修が不要となった。

これは境内の環境や前回の施工が良好であったことによるところも大きい。神社では屋根などへの落葉の清掃などを日常的に実施していることに加え、台風などで軒先などに破損が認められると、その都度専門職人による小修理を繰り返すなど、維持管理の体制が整っていることが最大の要因と考えられる。



摂社天神社本殿、摂社高良社本殿の竣工状況

### 塗装工事

各社殿の前の塗装は、足元を中心に塗装の粉状化や剥落が進んでいたが、各摂社においては軒廻りなどの上部が健全であったため、内法長押より下部の塗装を前回と同じカゼインを使用して塗り替えた。本殿は垂木などで塗装の剥離が確認されたため、文化庁の計画変更の承認を受けた上で、全面塗り替えとした。カゼインは工業製品であるが、膠と同様に経年で自然に劣化するため、塗面が粉状化して比較的簡単に掻き落とせることも確認できた。また膠と同様の成分であることから、下地である木部にかかる負担も小さく、文化財修理には適した材料と考えることが出来る。一方、触ると顔料が衣服などにつきやすいため、参詣者が自由に行き来する楼門では、膠着材に合成樹脂が使用されていた。合成樹脂を使用すると強固な塗面となるが、そのために次回の掻き落としが困難となる上、一旦樹脂が浸透すると、今後膠やカゼインでの施工が困難となり、可逆性の低い材料であると判断せざるを得ない。

3月に着手した拝殿も塗面が硬く、合成樹脂による施工と見ていたが、掻き落としを進めてみると内部の状況からカゼインによる施工であることがわかり、ホルマリン塗布により表面の硬化が図られたものと推定した。ホルマリンは現在使用が制限されるが、同様の効果を持つ材料を併用すれば、カゼインや膠の耐久性を向上させることが期待できることが示唆された。

その他、塗装面においてカビや変色の発生への対応として、各摂社に礎石からの水分を遮断する目的で2mm厚の鉛板を礎石と柱底の間に挿入した。施工後柱材は十分な乾燥状態を維持しており、良好な結果が得られれば、拝殿にも応用する予定である。

（多井 忠嗣）



本殿軒廻りの塗装掻き落とし状況

## 重要文化財 金剛三昧院四所明神社本殿 の保存修理

建築年代：室町時代前期  
所在地：伊都郡高野町高野山  
修理の種類：屋根葺替  
修理期間：2015.6～2017.11

金剛三昧院四所明神社本殿は、境内南西部の斜面を少し登った位置に、杉木立と石楠花に囲まれて建つ。室町時代の天文21年（1552）に建立された。檜皮葺で、柱間が1m余りの小さな一間社春日造の社殿ではあるが、細部まで省略されることなく丁寧に造られている。身舎正面の頭貫を虹梁型にし、身舎前半分を開放とする平面形式などは河内地方の特色を示す。これは金剛三昧院の荘園のひとつに「河内国讃良庄」があったこととの関わりが想起される。

昭和44年に解体修理が行われ、全解体されている。その後、平成7年に屋根葺替が行われて現在に至る。木立に阻まれて日射がなく、落ち葉の堆積の影響などで屋根は腐朽が進み、数年前より屋根葺替が望まれる状況となっていた。一般的な檜皮の耐用年数は30年前後とされていることを考えると、20年未滿で葺替時期に達している状況から、檜皮屋根の維持には日照や通風がいかに大切か窺い知れる。

当事業は平成27年6月より開始し、工事は8月より着手した。素屋根建設後屋根面を観察すると、野垂木の位置を筋状に残し、野小舞が完全に腐朽し落ち込んでいる状態であった。腐朽箇所は野小舞、野垂木、



檜皮屋根解体後の状態



屋根葺替前の檜皮の状態

母屋、桔木に達し、化粧材では裏甲、化粧裏板、化粧垂木の一部が原型を留めない状態であった。箱棟廻りは全て新材に取り替えた。ただ、当初の想定より程度が軽微であったことから、若干の工事範囲の変更として計画変更申請を行った。また、今回取り替えた部材は、全て昭和44年の取替材の範囲であった。

箱棟は腐朽が顕著であり、今後の維持管理を考え、材種を高野槇に変更し、また下端が直接檜皮面に接しないよう、銅板で縁切りをして屋根面に据えた。

檜皮は全て4寸5分の材料を使用した。箱棟は銅板包みの上に黒漆塗装とし、黒漆は全て日本産漆を使用した。水切り板は檜皮から受ける腐食を考慮してカラー鉄板としたが、破風など反りが強い曲線が多かったことから、先端に垂れを設けず、アダ折りのみとした。これが今後どのような影響を及ぼすか注視する必要があるが、軒の線が非常すっきりと整理された。

また、小屋内から昭和44年に取り替えられた部材の保管材がでてきた。主に縁回りの材料と丸桁で、全て酸化鉄系赤色塗料の色味を帯びた塗料が塗られていた。記録及び写真撮影の後、元の位置に整理して戻した。  
(結城 啓司)



小屋組修理・軒付積み替え完了時の状態

## 重要文化財 安楽寺多宝小塔の保存修理

建築年代：室町時代前期  
所在地：有田郡有田川町二川  
修理の種類：半解体修理  
修理期間：2015.11～2017.1

安楽寺多宝小塔は室町時代前期に建立された、全国でも非常に珍しい小塔形式の多宝塔であり、単体の建造物として唯一の国指定文化財となっている。

多宝小塔は安楽寺境内の収蔵庫内に納められている。このため雨風等の影響は受けないが、建立後より現在までに蓄積した経年による劣化や、過去の修理時の不具合などもあり、二重組物や軒廻りを中心に部材の欠失や破損、組み合わせの不具合などが散見された。今回、収蔵施設の劣化による建て替えが計画されたことに伴い、多宝小塔の解体修理を実施する運びとなった。

当事業では収蔵庫の建て替えが前提となるため、場所を移しての実施となった。修理作業場には、有田川町より提供して頂いた金屋文化保健センター内の一室を使用することとなった。

修理は必要最小限とし、解体範囲は二重組物を中心に行い、可能な限り大ばらしとする方針とした。また塗装は非常に貴重な室町期の当初塗膜が残存している可能性が高いため、剥落止めのみを行うこととした。

事業は平成25年11月より開始し、まず現地にて現況調査、修理前写真撮影などを行った。その後、塗装の剥落止めを行い、大ばらし、養生・梱包、搬出の



搬出前の状態

順に実施した。

作業場に搬入後は、一重軒廻りの補修と並行して、計画寸法などの詳細実測、破損調査、仕様調査、工法・技法調査、痕跡・変遷調査などを実施した。

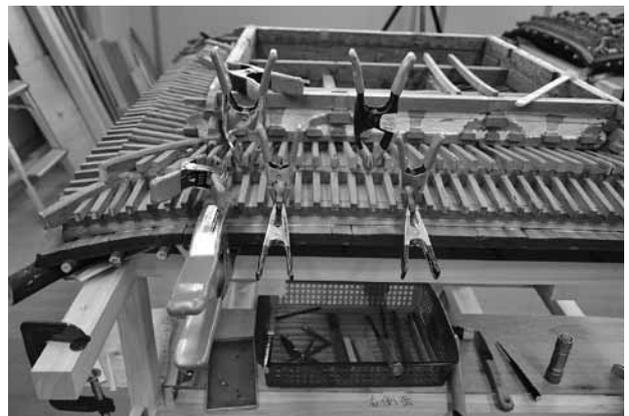
その結果、多宝小塔は建立後、一重軸部の柱間装置を中心に大きく改変されていたことが明らかとなった。現状の一重は正面中央間のみ幣軸構え棧唐戸とするが、建立当初は四面に幣軸構え棧唐戸を設け、さらに四面の両脇間には腰長押上に連子窓を設けていたことが判明した。これは、一般の多宝塔に多くみられる形式であり、この多宝小塔が厨子としてでなく、建造物としての意識が強く働いていることがうかがえる。また、当初より正面が変更されていることも判明したが、これは小塔ならではの改変といえる。

事業当初は現状修理の方針であったが、これらの調査により判明した当初の多宝小塔の姿は、建物の価値をより高めるものと考え、文化庁の指導や所有者、県及び町関係者などの協議を経て次年度に現状変更申請書を提出する運びとなった。

次年度は引き続き木部の補修を進め、10月末に工事を完了する予定である。 (結城 啓司)



作業場搬入時の状態



一重軒廻り補修実施状況

## 重要文化財 宝来山神社本殿の保存修理、 県指定文化財 宝来山神社末社東殿・ 西殿の保存修理

建築年代：本殿（4棟）慶長19年（1614）、  
末社（2棟）江戸時代前期  
所在地：伊都郡かつらぎ町萩原  
事業の種類：屋根葺替・塗装修理  
事業期間：2015.06～2016.09

### はじめに

宝来山神社は、宝亀4年（773）に和気清麻呂が八幡宮を勧請したことに始まると伝えられる神社で、境内は古代の官道である南海道に面し、中世には京都高雄の神護寺領「柿田荘」として、近世には高野山との関わりを持つようになる。周辺には「文覚井」と呼ばれる中世からの灌漑水路も残るなど、歴史と由緒のある場所である。

本殿は、豊臣秀吉の紀州攻めの影響で焼失した後の慶長19年（1614）に再建された建物で、「春日造」と称する規模や形式の同じ建物4棟が横に並び、さらにその両脇に「二間社流造」の末社が1棟ずつ建って、全部で6棟が一行に並ぶ形式をとる。本殿4棟は国の指定文化財に、末社2棟は和歌山県の文化財に、それぞれ指定されている。

### 修理の概要

平成28年10月の正遷宮に向けて境内の整備が進められるなか、本殿と末社の社殿6棟では、保存修理事業として平成27年6月より同28年9月までのあ



末社東殿の竣工状況（南より見る）



第一殿・第三殿（手前）の竣工状況

いだ、檜皮屋根の葺き替えと塗装の塗り替えの修理をおこなっている。

社殿は昭和46年に解体修理がおこなわれ、その際の調査結果を受けて、本殿では江戸期の改造部分が建立時のすがたへと戻されている。以降は、平成4年に檜皮屋根の葺き替え修理がおこなわれ、今回の修理は、檜皮屋根が24年ぶりの葺き替え、塗装が45年ぶりの塗り替えとなった。

### 修理の経過

今回の修理は、東側の社殿3棟で修理を進め、完了後に西側の社殿3棟へ移行するかたちで進めている。本年度の施工は、東側社殿の竣工と西側社殿での一部着手までの計画で始めたが、修理中に第一殿内部の襖に破損が確認されたため、計画変更をおこない、表具工事を追加して実施した。

修理中には、各社殿の小屋組の中に昭和46年の解体修理で再用されなかった部材が保存されていることも確認した。とりわけ第一殿では、屋根正面の妻飾りの構成部材1組分が残されていた（写真4）。保存修



第三殿での飾り金具取付状況



第一殿小屋組内保存部材の仮組みの様子

理工事で作成された報告書にも当時の調査や現状変更の経緯は記されているが、今回の保存部材の確認によって、その内容をよりの確に把握することができた。

末社東殿の保存部材では、昭和46年以前の塗装がそのまま残っており、痕跡などから部材ごとの来歴や色構成の変遷なども確認できた。また、今回修理での塗膜の掻き落とし作業では不明瞭であった点も、保存部材の存在でその判断を補うことができた。

### おわりに

保存修理では、建物やその部材が有する情報から、来歴や変遷の多くを読み取ることができる。一方で、現状変更のようにある時期のすがたに復原された場合、途中の改変されたすがたは失われることも起こり得る。そうした事実を、棟札や文書など文字記録と同様に、いかに後世へ伝えるか、という点について、保存部材を手にしながら改めて考えさせられた。

次年度も引き続き、西側の社殿3棟で修理を進めていく予定である。 (下津健太郎)



第二殿（手前）・第四殿での軒付補修状況

## 重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか 二棟の保存修理基本設計

建築年代：大正3年(1914)

所在地：新宮市新宮地内

事業の種類：基本設計

事業期間：2015.06～2016.01

旧西村家住宅は、大正3年に西村伊作自らが設計した3度目の自邸で、昭和初期頃まで一家が居住した後は借家とされ、同39年からは西村記念館として一般公開され始めて、平成10年からは新宮市が管理運営を担って来ている。

建築より100年を経過した建物は、基礎の沈下や雨漏り、軸部の蟻害などの破損が目立って来たため、平成28年度からの保存修理に向けて、同24年度より保存活用計画の策定、同26年度より耐震診断事業をおこなって来た。

当センターでは、これらの事業に続くかたちで、保存修理のための基本設計業務を担当した。業務ではまず、各部の仕様や変遷、破損状況などの調査や確認を進めた。また、修理計画を立てる際には耐震診断事業での診断結果も考慮し、その補強案の策定にも関わることで、基礎や軸組の補強内容と保存修理の内容とに食い違いが生じないように配慮した。

保存活用計画、耐震診断事業、保存修理事業という補助事業の流れのなか、ややもすると独立してしまいがちな各事業を、文化庁や県、市、各事業の担当者が連携を取りながら、それらを基本設計書に反映させられたことは有意義であった。 (下津健太郎)



1階内部、東側の食堂より西側の居間を見る

## 県指定文化財 総持寺総門・鐘楼の保存修理

建築年代：総門 宝暦 11 (1761)

鐘楼 寛永 15 (1638)

所在地：和歌山市梶取

修理の種類：総門 半解体修理 鐘楼 解体修理

修理期間：2015.2～2017.8

### 事業の概要

総持寺においては、平成 26 年度からの 3 ヶ年事業として、和歌山県指定文化財である総門と鐘楼の修理を進めている。2 ヶ年度目にあたる本年度は、総門の半解体修理を進め、竣工した。また、平成 26 年度に解体工事までを実施した鐘楼の、木製部材の補修や新調を進めた。

### 総門の半解体修理

総門は柱の沈下などにより建物全体が歪んでいたため、柱をジャッキアップして建て起こし、基礎や切り縮められていた柱足元を復旧するなどの補修を施した。

建て起こしに際しては、各控柱が、腰貫位置から下部で外に張り出すように曲がっていることが視認されたため、詳細な実測調査を実施したところ、柱天から腰貫位置までは垂直で、腰貫位置で折れるかたちで柱底までで 12mm 建物の前後（南北）方向に傾斜がつけられていることが判明した。また、あわせて腰長押及び腰貫は、親柱への取り付けが控柱と比して 15mm 高く位置する山形に納められていることもわかった。

総門は四脚門と呼ばれる形式の門であるが、中世の



四脚門としての特徴を持つ総門の控柱、腰長押

四脚門の特徴として、控え柱が腰位置で外側に曲げられ、腰長押などが山形に配されることが挙げられる。この特徴は、江戸時代を下るにつれて省略され、柱は垂直、長押や貫は水平に納まるようになる。総持寺の総門は江戸時代前期の 17 世紀中頃の建物と考えられており、中世の形式を残す貴重な遺構であることが確認された。しかし、中世の四脚門の控柱が、四方転び（前後、左右双方に傾く＝隅側に向かって折れる）となっているのに対し、総門は前後の一方向にしか曲げられておらず、形式が省略されていく過渡期を示すものと考えられる。

使用されていた瓦を調査したところ、大半が大坂岬町の谷川で焼かれた一連の瓦であることが確認され、鬼瓦にへら搔きされた宝暦 11 年 (1761) に一旦全ての瓦を新調し、屋根が葺き直されていることが判明した。建立から 100 年程度で全ての瓦を新調することは異例なことであるが、寺の記録に当時の第三十四世龍峰義仙上人が「一山の諸建造物に大修理を加へ且つ諸堂の荘厳品を調整して寺観を一新した」とあることが確認され、修理に伴う調査結果を裏付けるものとなった。

修理にあわせ、痕跡調査などの成果を反映して門扉の高さや塀の漆喰壁を復旧したほか、親柱・控柱間の腰貫上に耐震壁を新設して、安全性の確保にも努めた。

### 鐘楼の解体修理

柱などの腐朽が進んでいた鐘楼の解体した部材の調査を進めた結果、四方転びに納められる軸部の柱間は、柱天で 13 尺、腰貫天で 14 尺と明快な寸法で計画されており、柱の勾配も 1 尺あたり 5 分 (5 / 100) となっていることが判明した。また、木材には檜、榎、松、樺、楠が使用され、いずれも良材であるものの、同種の部材に複数の樹種が混在している。（多井 忠嗣）



総門の波形の彫刻が施された大棟の装飾瓦

## 県指定文化財 旧和歌山県会議事堂の 保存修理

建築年代：明治31年（1898）  
所在地：岩出市根来  
修理の種類：解体移築修理  
受託期間：2013.11～2016.3

旧和歌山県会議事堂は現存最古の木造和風意匠の議事堂建築で、明治31年（1898）に和歌山市一番丁に建築された。外観は和風であるが、小屋組には洋式のトラス構造が採用され、ボルトや金具が構造材として使用されており、和洋折衷のつくりになっている。建築当初は「本館」「議場」「控室」からなる工型平面で、背面側には物置、便所などの「付属棟」があった。昭和16年に付属棟と共に売却され美園町に移築、さらに昭和37年に根来寺に移築され、山号にちなんで一乗閣と名付けられ寺の客殿となったが、近年は傷みが大きく閉鎖状態になっていた。そのため三度目の移築をし、保存修理をすることとなった。正面外観に大きな違いはないが、一度目の移築の際「控室」がなくなりT型平面となり、議場の向きが反転されるなど大きく改変されていた。県有財産処分一件書類添付の平面図や航空写真、大正時代の修繕記録などから「控室」の存在が判明し、柱など部材の痕跡を調査し「控室」を復元し、議場の位置を元に戻すなど、建築当初の姿に復元した。センターは平成25年度の調査支援から、継続的に業務を支援した。（松井 美香）



竣工した旧県会議事堂

## 国登録文化財 旧橋本本陣池永家住宅 の保存修理

建築年代：主屋 享保16（1713）以前  
離座敷、表門、土蔵 江戸後期  
所在地：橋本市橋本  
修理の種類：屋根葺替・部分修理  
修理期間：2014.11～2015.3

池永家住宅においては、市街地再開発事業に伴う各建物の曳家工事に伴う文化財としての修理工事の技術指導を担当し、3ヶ年をかけて事業が完了した。

今回は各建物の瓦屋根の葺き替えのほか、腐朽した木部や左官壁の補修を中心に進め、シャッターなどに改変されていた主屋、土蔵の正面側に関しては、痕跡調査や古写真などの資料から復元的に整備した。

また、土壁の崩落が進んでいた土蔵は、正面東側にオリジナルの土壁を残しつつ、既製品のパネル壁材も採用し、耐震対策を施した。主屋や離れ座敷においても、座敷部など主要部分の本来の構成に影響が出ないよう配慮して耐震壁を増設した。

以前から、主屋の大棟に載る鬼瓦に宝暦2年（1752）のへう掻きが確認されており、橋本市の東隣に位置する奈良県五条市で作製された瓦であることが知られていたが、今回の修理に伴い、主屋の正面屋入母屋屋根の妻部分には同時期の大阪岬町で作られた谷川瓦が、また離れ座敷には地元橋本市東家の瓦と製の瓦が用いられていることが判明した。これらは建物の景観を印象づける主要な要素であるとともに、地域の歴史資料としても貴重であるため、可能な限り屋根に再用した。（多井 忠嗣）



外観の復元的修理が完了した主屋と土蔵

## 国登録文化財 みそや別館の保存修理

建築年代：主屋 明治17（1884）  
上葺及び離座敷 明治中期  
下葺 文化5（1808）  
所在地：橋本市橋本  
修理の種類：屋根葺替・部分修理  
修理期間：2014.11～2015.3

みそ屋別館は、大和街道に面して建つ明治期の呉服商の屋敷である。市街地再開発により、敷地全体の嵩上げ、背面側斜面の擁壁新設のため、一旦全ての建物を曳き家し、造成工事完了後に再曳き家する事業が年度より2ヶ年度にかけて実施されており、これに伴い破損が進んだ瓦屋根や木部などの修理に関する技術指導を担当している。

主屋には棟札から明治17年（1884）に京都と橋本の大工棟梁により建てたことが確認されており、北側背面の傾斜を利用し、主屋とその2階ほどの高さにて建てられた上葺及び離座敷を渡り廊下で立体的につなげる遊び心に富んだ建物となっている。

各建物は、全体に比較的良好な状況であったが、柱足元などに腐朽が進み、中古にコンクリートなどを使って変更された部分が認められた。このため今回の曳き家に伴うジャッキアップ施工時に、柱に根継修理を施すとともに、木部は本来の納まりに復した。

また、主屋は大正期には銀行などに転用され、その後も用途を替えて利用されてきたため、正面や土間部分が大きく改造されていた。建物内に大正時代の改変時に取り外された古材などが多数保管されていたが、今回の修理に伴う調査により、出格子や床机、揚戸、

床框など、主要な部材の大半が良好な状態で残されていることが確認されたため、古材を用いて正面部分を整備することを目指して復原考察を進めている。

屋根には、地元東家地区で焼かれた『瓦与』の瓦が使用されており、状態も良好であることが確認された。造成工事が完了後、予定より早く本来の位置に再曳き家できた主屋においては、正面側にはほぼ全てオリジナルの瓦を再使用し、屋根工事を平成27年度中に完了することが出来た。土間部分には、明かり取りのため瓦屋根がかからない部分が設けられており、中古に改変を受けていたが、これらも本来の瓦屋根の納まりを復するとともに、納まりを工夫して開口部には樹脂製の屋根を仮設することで、明かり取りの機能を確保するとともに、雨が吹き込まない利便性にも配慮した。

みそやには、煉瓦塀や別棟の風呂など、文化財には登録されていない建物も存在するが、所有者の意向もあり、屋敷の景観を保持するため登録文化財の建物と一連で残すものとし、曳き家、移設を実施して復旧に備えている。このほか修理完了後の活用に備え、便所などの便益設備は、主屋や上座敷からの景色に配慮し、建物外の見え隠れに整備する計画である。（多井 忠嗣）



主屋二階に保管されていた出格子鴨居古材ほか



主屋の曳家施工状況



『東家瓦与』の刻印が施された一文字瓦

## 国史跡 丹生都比売神社境内 歴史活き活き史跡等総合活用整備事業 ～輪橋の保存修理～

建築年代：不明

所在地：伊都郡かつらぎ町上天野

修理の種類：半解体修理、塗装修理

修理期間：2015.6～2016.3

輪橋は丹生都比売神社境内の正面入り口に近い鏡池に架かる。木々に囲まれた静謐な場所で、鏡池に浮かび上がる輪橋の姿は、多くの神社に訪れる参拝者にとって最初に目にする光景であり、丹生都比売神社を印象付けている。

境内を描く最も古い絵図である「弘法大師高野丹生両明神像（13世紀末頃）」にも同じ位置に反り橋が描かれており、江戸期まで様々な絵図に登場するが、寸法や形式などから現状の橋とは異なると考えられる。現在の輪橋の建立年代は明らかでないが、明治32年撮影の古写真には現状と同様の橋が写っている。

総長さは高欄親柱間で17.8m、幅は高欄間隔で3.57m、橋面の高低差は3.24mと、全国でも珍しい、規模の大きな木造の反り橋である。橋脚は花崗岩を二丁接ぎとして木製の貫で固めている。

木材が雨ざらしとなるため腐朽は避けられず、建立後は何度も修理が行われているようで、直近では昭和52年に橋板を全て取り替える修理が行われた。その後も小修理が行われ、塗装は平成21年に全面的に塗り替えられたが、塗料の不適合又は木地を補修していなかったためか、数年で塗膜の剥離が顕著となってい



橋板組み立て完了時の状態



橋板解体後の状態

た。

当事業は史跡地である丹生都比売神社境内を構成する要素として、輪橋の保存整備を国・県及び町の補助を得て実施した。塗装の塗り替えを主とし、腐朽・破損部分の木部について部分解体の上補修した。

事業は平成27年6月より開始し、入札により施工業者を決定のうえ、7月より工事に着手した。工事用足場を鏡池に架け渡し、塗装片などが池に落ちないように厳重に養生を施した。現状塗装を掻き落としたところ、当初の予定よりも木部の腐朽が進行していたため、計画変更承認申請を行い、木部の補修範囲を拡大して実施した。また塗装についても、資料調査や部材の塗装痕跡調査により旧来の塗装状況が判明したため、赤色塗装を酸化鉄系塗料の色味に、橋板木口を黄土より黒色に変更した。赤色塗料の色味は本殿の酸化鉄系塗料に倣ったが、雨ざらしとなるため膠着材はアクリル樹脂とし、顔料に酸化鉄系の弁柄を用いた塗料を使用した。

竣工すると赤の色味変わったため、施工前の印象から大きく異なったが、重要文化財の本殿や楼門などと統一された色味の赤色塗料が落ち着いた景観を演出しているように感じる。（結城 啓司）



塗装実施状況

## 地籍図を利用した湯川氏館跡の復元

### はじめに

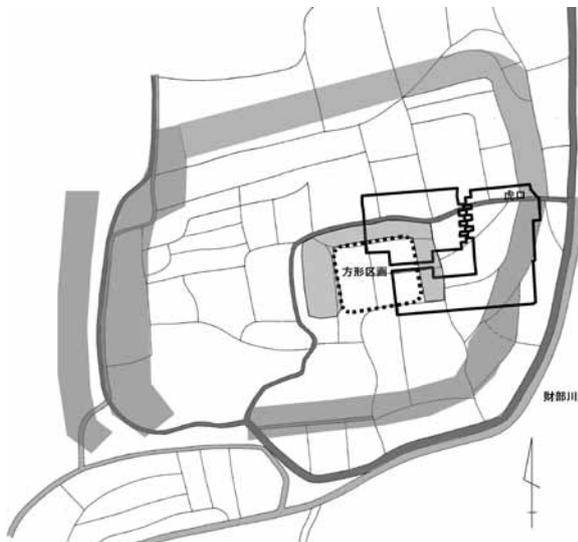
考古学では、地上から消滅した古墳や城館などの遺跡・遺構を、航空写真や地籍図を利用して発見あるいは推定復元する試みがある。

筆者は、過去に御坊市熊野に所在する野口城跡について地籍図を使って推定復元したことがあるが、土塁や堀に対応する地番・地目から、ほぼ旧状を推定することができた。

ここでは、野口城跡と同じ御坊市に所在し、平成27年度には報告書が刊行された湯川氏館跡について、発掘調査成果と地籍図を使い館跡の復元を試みたい。

### 湯川氏館跡

湯川氏館跡は、室町時代に紀中・紀南地方の海岸部を中心に勢力を持っていた湯川氏の拠点で、小松原館跡とも呼ばれ、詰め城である亀山城とセットになる館である。JR御坊駅南東の紀央館高校と湯川中学校の敷地に展開していたもので、これまで校舎の改築工事等に伴って14次の発掘調査が行われ、面積8,572㎡が調査されている。このうち、最も広い面積を調査したのが、本年報にも掲載している2013年度の湯川中学校改築工事に伴うもので、館跡の南東部付近の3,783㎡調査を行っている。既往の調査では、館跡の堀が各所で確認されており、最終段階の館の規模は、東西約225m、南北約200mと推定されている。



地籍図から復元した湯川氏館の堀

### 館跡復元作業

館跡は改修を重ねているが、地籍図に表われているのは最終段階の堀などの形態であると捉えることができる。左下の図は地籍図に2013年度の調査区と最終段階と考えられる堀を書き加えたものである。2013年度の調査では館東側の堀や庭園の池、堀を巡らした方形区画のほか、堀に架かる橋脚を検出している。東側の堀の橋脚は館の虎口に係るもので、地籍図の里道上に位置する。調査でも里道の痕跡を検出しているが、虎口付近から西に伸び方形区画を囲む堀に沿って南に屈曲していることが窺える。方形区画の北側には橋脚を検出していることから、館内の動線がそのまま里道に踏襲されていることが推定できる。

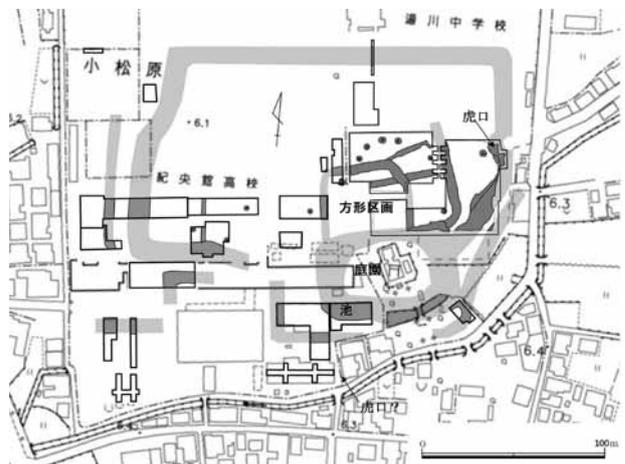
虎口より南側では、地籍図の水田区画に沿うように堀を検出している。一方、虎口より北側では水田区画が西方に折れており、この折れが、館の北東隅を示すものと考えられる。内側にも、同様に折れる水田区画があり、土塁の痕跡であった可能性もある。

一方、館西側では里道・水路に沿うように二重の堀や土塁が構築され、堀間の土塁天端が里道となることが分かっている。館の北西隅が直角に折れていることを想定して設けた調査区では、堀が検出されていないことから、北西隅付近では地籍図の水路や里道が示すように内側に複雑に折れていたことが窺える。

### まとめ

復元作業は、中途半端な状態で終わることになるが、地籍図からも多くの情報が得られることが明らかになった。今後、既往の調査結果などを再整理したい。

(川崎 雅史)



湯川氏館推定復元図

# 文化財建造物の年輪年代調査報告

## —総持寺総門の建立年代と 使用されている木材の産地—

### はじめに

県指定文化財総持寺鐘楼（江戸前期）の解体修理を進めているが、昨年度の解体工事時に梁材上面で発見された棟札から、寛永15年(1638)に鑄造された梵鐘と同時期に建てられた建物であることが確認された。しかし棟札には年代が明記されていなかったため、創建に関連する木材の年代情報を得ることを主目的に、独立行政法人奈良文化財研究所の光谷拓実客員研究員に、使用部材の年輪年代法による年代測定を依頼した。

またこれを機会に、木材の産地及び当時の木材の流通状況に関する光谷氏の研究に対し、調査対象の調整などの協力を行った。

### 年輪年代調査

樹木は年ごとの気候や温度の特性により、微妙に成長の程度に差が出る。年輪年代調査においては、この樹木の特性を利用し、建造物や仏像などに用いられている木材の年輪幅のパターンを解析することにより、各年輪の年代を特定する調査方法である。

総持寺における現地調査では、デジタルカメラによる計測用の年輪画像を撮影し、画像データを印刷した上で年輪読取器を用いて10ミクロン単位の年輪幅データを収集した。

コンピュータによる年輪パターンの照合法は相互相関分析法<sup>1)</sup>によった。なお、年代を割り出すための暦年標準パターンは各地の年輪データを総平均し、広い地域をカバーすることが確認されている約2000年間のものを使用することとした。

### 和歌山県下における年輪年代調査

年輪年代調査は、多くの年輪データを集積し、基準となる暦年の確定した標準年輪パターン（暦年標準パターン）を作成する必要がある。和歌山県の文化財建造物修理事業においては、奈良文化財研究所で年輪年代調査の研究が開始された初期段階より、データの収集に必要な古材などの資料提供や調査協力を行ってきた。

当初は木材の断面から直接データを読み取る必要があったため、平滑な柂目が露出した部材もしくは部材からコア抜きを行う必要があり、計測できる部材が限定された。しかし調査の手法や機具類の発展に伴い、檜材や杉材であれば、100年以上の柂目が露出している面をデジタルカメラで撮影することによって年代の特定が出来るようになった。このことで飛躍的に年輪パターンのデータ量が増えて精度があがり、建造物の建立年代の特定に寄与するのみならず、産地の特定に関する研究も進められつつある。

平成24年には重要文化財金剛三昧院客殿修理事業時において、檜材の柱や天井板、建具など19点の調査を実施し、その中で検出された最も新しい年代が1619年との調査結果を得た。この部材は伐採年代を確定できる樹皮直下の層こそ残っていなかったが、外周である辺材部分が確認できたため、1619年+10年程度に伐採された樹木が使用されていると推定され、建物様式や史料調査などから寛永年間ころの建立と考えられていたことも矛盾ない結果となった。

京都で多用されている檜材のなかには、年輪パターンの特徴から木曽檜の多いことがわかっているが、金剛三昧院で使用されている檜材ではこれとは異なるパターンが確認され、紀伊山地産の木材を特定出来るパターン構築の可能性が示唆される結果となった。今回の総持寺における調査は、紀伊山地で育った樹木のデータ収集も目的として実施されたものであり、あわせて和歌山市祢宜の重要文化財旧中筋家住宅主屋においても調査が実施された。

### 調査結果

総持寺鐘楼においては、檜、樺、松、欅、楠が使用されており、柱や貫、梁などには長大な檜の良材が使用されている。この中で組物上に載る虹梁材には、高さ30cmを越える側面に目の詰まった柂目部分があり、調査対象として優良であると判断された。同虹梁は南北両面に同じ形状のものが2本あるが、今回の調査では、上角に樹皮直下部分が残されている北材を調査対象とし、より高い精度で調査を行うために、同一部材で複数箇所の撮影が行われた。

あわせて、同じく年輪密度の高い檜材が用いられた西虹梁においても同様の撮影を行った。撮影データか

らの年輪パターンの照合が進められた結果、北虹梁には、1635年に伐採された樹木が使用されていることが特定された。これは棟札や梵鐘の陽刻から特定した1638年の建立年代と矛盾なく、伐採されてから3年と、特に長い乾燥期間などをおくことなく木材が使用されている当時の状況を伝える資料としても重要である。

さらに興味深いことに、鐘楼で用いられていた北虹梁と西虹梁の2部材は紀伊山地産ではなく、木曾産のものと特定された。経緯は不明であるが、貞応2年(1653)建立の海禅院多宝塔(和歌山市和歌浦妹背山)にも木曾檜が使用されていることが伝えられており、江戸期には和歌山県下でも木曾檜が流通していたものと見られる。

旧中筋家住宅では、主屋大広間の付書院の壁板、腰高障子の腰板の杉材のほか、縁板の柅材の調査が行われた。結果、杉材では全て同様のパターンが確認された。そのなかで最も新しい年代は1793年であった。これらの部材は辺材部分が含まれていないが、鬼瓦刻印から確認された建立年代である嘉永5年(1852)と、大きな齟齬が生じない結果となった。



総持寺鐘楼虹梁の年輪の状況



同上墓股の撮影状況

## 今後の展望

紀伊山地産の樹木の特定用パターンの構築は、和歌山県内の歴史的建造物の建立・改修の状況の理解を深める上で、重要な作業と考えられる。このため、今後も年輪年代調査への協力を進めていく予定である。

通常入ることが難しい社殿の内部なども、修理工事の機会を活用すれば、調査を行うことも可能である。現在修理事業を実施中の広八幡神社にでは、応永20年(1413)建立の本殿や摂社若宮社本殿において、神社の協力を得た上で光谷氏による調査が進められており、中世の木材の流通状況を示す資料となるデータが確認されるものとして期待される。

また平成19年に解体工事が竣工した福勝寺本堂においては、寛文2年(1625)や天保7年(1836)の紀州藩による修理材を調査対象とし、紀伊山地産檜材の近世のパターン集積にあわせ、近世に多用されている柅材の暦年標準パターンの作成が期待される。

(多井 忠嗣)

- 1) 光谷拓実、田中琢、佐藤忠信：『年輪に歴史を読むー日本における古年輪学の成立ー』、奈良国立文化財研究所学報第48冊、同朋舎出版(1990)



旧中筋家住宅主屋での調査状況



重要文化財広八幡神社摂社若宮社本殿の調査状況

## 平成 27 年度の普及活動

### ○埋蔵文化財に関する普及事業

- ・ 報告会・シンポジウム  
和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」  
公開シンポジウム「紀中・紀南の旗頭－湯川氏の城・館・城下町」
- ・ 和歌山県内埋蔵文化財調査成果展  
「紀州のあゆみ」
- ・ 現地見学会  
「歩いて知る紀の国歴史探訪  
～湯川氏の故地を訪ねる～」
- ・ 発掘調査現地説明会・現地公開  
「寺内古墳群・相方遺跡」、「新宮城下町遺跡」、「藤並地区遺跡」、「田屋遺跡」
- ・ 出前授業 「和歌山市立川永小学校」
- ・ 埋蔵文化財発掘調査概要パンフレットの作成
- ・ 既刊報告書の電子書籍化

### ○文化財建造物に関する普及事業

- ・ 現地見学会 「見て知る減等技術 広八幡神社現場公開」
- ・ 和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会講義・実習

### 埋蔵文化財に関する普及事業

平成 27 年度の普及啓発事業として埋蔵文化財関係では 11 件の事業を実施した。このうち、文化財調査報告会、公開シンポジウム、埋蔵文化財調査成果展、現地見学会、埋蔵文化財発掘調査概要パンフレットの作成、既刊報告書の電子書籍化は、国庫補助金を得て実施した。また、県内の各発掘調査現場において現地説明会・現地公開を開催した。

このほか、季刊情報誌「風車」の刊行や、各事業において資料集やマップ等を作成し、参加者及び周辺自治体及び研究機関等に配布した。

### 文化財調査報告会 「地宝のひびき」

平成 27 年 7 月 20 日に和歌山県立図書館（きのくに志学館）2 階講義・研究室において、前年度の埋蔵文化財調査の成果などを県民の皆様にご覧いただくため、和歌山県内文化財調査報告会と題して開催した。

発表は、「50 年ぶりの発掘調査－和歌山市 岩橋千

塚古墳群大谷山 22 号墳の発掘調査－」上地舞（和歌山県教育委員会）、「本州最南端の横穴式石室－すさみ町上ミ山古墳の出土遺物－」黒石哲夫（和歌山県教育委員会）、「古墳時代の洪水で埋まった畠と水田－和歌山市 井辺遺跡第 36 次調査・津秦Ⅱ遺跡第 10 次調査－」藤藪勝則（（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団）、「弥生時代の建物跡と古墳を発掘－和歌山市 平井遺跡第 3・4 次調査－」山本光俊（（公財）和歌山県文化財センター）、「荘園開発の拠点？寺院跡の発掘－和歌山市 木ノ本Ⅲ遺跡第 12 次調査－」菊井佳弥（（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団）、「川の下を潜る用水路－橋本市 出塔の水道の発掘調査－」村田弘（（公財）和歌山県文化財センター）、「寺院造営集団の居宅？－海南市 木津遺跡の発掘調査－」小林充貴（（公財）和歌山県文化財センター）で、参加者数は 86 名であった。



地方のひびき 会場風景

### 公開シンポジウム「紀中・紀南の旗頭－湯川氏の城・館・城下町」

平成 28 年 1 月 30 日に御坊市中央公民館 3 階大会議室で開催した。湯川氏館跡発掘調査成果を報告するとともに、湯川氏に関連する発表があった。

報告・発表は、「湯川氏館跡の発掘調査」川崎雅史（（公財）和歌山県文化財センター）、「守護家畠山氏と奉公衆家湯河氏」弓倉弘年（和歌山県立桐蔭高等学校）、「湯河一族の城－縄張り調査から考える－」白石博則（大阪府立貝塚南高等学校）、「湯川氏館跡周辺の景観」新谷和之（和歌山城整備企画課）で、発表の後、討論を行い、文献・館・城・城下町の分野から湯川氏の実像に迫った。

お城ブームで、地元では有名な戦国武将をテーマにしたこともあって、紀中・紀南地方としては盛況の 124 名の参加を得ることができた。

また、当日は会場の一画に湯川氏館跡から出土した遺物の展示も併せて行った。



公開シンポジウム 会場風景

### 和歌山県内埋蔵文化財調査成果展 「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された埋蔵文化財関係の調査成果を県民等に公開することを目的に、紀の川市歴史民俗資料館・新宮市立歴史民俗資料館で展示した。平成26年度に発掘調査を行った遺跡の速報展示を中心に、県指定文化財に新規指定されたものの紹介も行った。展示を行った遺跡は、平井遺跡・和歌山城跡・大谷山22号墳(和歌山市)、旧名手本陣(紀の川市)、上ミ山古墳(すさみ町)、八反田遺跡(新宮市)である。紀の川市会場は平成27年10月10日～11月8日の期間で見学者は649名、新宮市会場は平成27年11月14日～12月13日の期間で見学者は327名であった。



紀州のあゆみ 展示風景

### 歩いて知るきのくに歴史探訪

「湯川氏の故地を訪ねる」と題して、御坊市湯川町小松原を歩いた。JR御坊駅前から九品寺までのルートにおいて、湯川氏に関わる文化財を中心とした内容の解説マップを配布し、各文化財の解説を行いながら

参加者とともに見学を行った。

まず、集合場所であるJR御坊駅前広場において、駅を挟んで北側にある亀山城跡について当センター埋蔵文化財課職員が解説を行った。続いて、湯川神社にて小松原II遺跡・小松原館跡の発掘調査の成果について同職員が解説を行った。その後、石敢當を2ヶ所見学した後、法林寺に移動し、ご住職から法林寺や湯川氏についての講話を聞いた。続いて九品寺ではご住職に寺と松平頼雄の供養塔についてのお話を聞いた

早朝からの開催にも関わらず57名の参加者を得た。



法林寺本堂にてご住職による講話

### 発掘調査現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査成果を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の現地説明会・現地公開を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に多数の参加者を得ることができた。現地説明会・現地公開を開催した遺跡と開催日および参加者は、寺内古墳群、相方遺跡(平成28年3月6日)84名、田屋遺跡(平成28年3月6日)37名、藤並地遺跡(平成28年2月20日)9名、新宮城跡、新宮城下町遺跡(平成28年3月26日)167名であった。



寺内古墳群・相方遺跡 現地説明会風景



新宮城跡、新宮城下町遺跡現地説明会風景

### 出前授業

平成 27 年 5 月 12 日に和歌山市立川永小学校で 6 年生を対象に講師 2 名を派遣して、毎年恒例となっている出前授業を行った。

授業では、小学校周辺の遺跡や地元の歴史を紹介し、実際に土器を手にとりて観察などの授業を行った。また発掘調査を行う理由や、調査で何が分かるかを解説・説明した。

### 埋蔵文化財発掘調査概要パンフレットの作成

(財) 和歌山県文化財センター、又は (公財) 和歌山県文化財センターが発掘調査を実施した遺跡のなかで、大部分、又は主要部分について発掘調査を行った遺跡、発掘調査によって大きな成果が得られている遺跡を選び、本年度は、和歌山市西浜に所在する防潮・防波堤防で、江戸時代の石積み技術を結晶した県指定史跡水軒堤防のパンフレットを一般向けに作製した。パンフレットは A 4 版縦型で、A 3 用紙 2 つ折りで製本した。

### 既刊報告書の電子書籍化

平成 23 年度より、(財) 和歌山県文化財センターで及び (公財) 和歌山県文化財センターが過去に刊行した発掘調査報告書の公開・活用促進を目的として既刊報告書の電子書籍化を行っている。本年度は 13 冊の報告書を対象として電子化を実施し、PDF 形式のデータをディスクに保存している。

### 文化財建造物に関する普及事業

#### 「見て知る伝統技術」

公益財団法人和歌山県文化財保護協会主催で毎年実施している文化財公開事業として、10 月 4 日に広八幡神社において、修理工事を進めている重要文化財及び県指定文化財建造物の見学会に協力した。

佐々木宮司による神社の沿革などの講義を受けた上で、楼門、摂社高良社本殿、摂社天神社本殿、舞殿と室町から江戸期にかけての建物の修理が完成した様子を見学して貰った。また作業足場に登り、本殿や摂社若宮社本殿の檜皮葺きや塗装工事など伝統的工法による修理工事について解説した。



広八幡神社本殿修理現場の見学状況

#### ヘリテージマネージャー講習会

地域に眠る歴史的な文化遺産を発見、保存、活用して地域づくりに活かし、また災害時対策業務などにも従事する地域歴史文化遺産保全活用推進員を育成する講習会 (和歌山県建築士会開催) において、「伝統的建造物の構法と技法」「文化財建造物の修復」「重要文化財修理現場の視察と演習」の 3 講座を担当した。1 年間で 10 講座が開かれ、本年度で 3 回目の開催となった。



広八幡神社の修理現場における実習状況

# (公財)和歌山県文化財センター 平成27(2015)年度 概要

## I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	4件
埋蔵文化財遺物整理等受託業務	7件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	5件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	21件

## II 理事会・調査委員会・会議など

### 理事会・評議員会

理事会	27.06.03	アバローム紀の国
評議員会	27.06.26	和歌山ビッグ愛
理事会	27.11.16	アバローム紀の国
理事会	27.03.25	アバローム紀の国

### 調査指導

埴輪窯及び遺物包含層出土埴輪について(平井遺跡、平井II遺跡第1次出土遺物等業務)	犬木 努	大阪大谷大学
埴輪窯及び遺物包含層出土埴輪について(平井遺跡、平井II遺跡第1次出土遺物等業務)	廣瀬 覚 (独)	奈良文化財研究所
第1回 調査委員会 田屋遺跡発掘調査、平井遺跡・平井II遺跡・根来寺遺跡・和歌山城跡・小松原II遺跡出土遺物等整理について	27.12	於：田屋遺跡発掘調査現場
鈴木 久男 (京都産業大学)、中村 貞史 (御坊市歴史民俗資料館)、廣瀬 覚 (奈良文化財研究所)、 松尾 信裕 (大阪歴史博物館)、若林邦彦 (同志社大学歴史資料館)		
第2回 調査委員会 新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査について	28.03	於：新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査現場
鈴木 久男 (京都産業大学)、松尾 信裕 (大阪歴史博物館)		

### 埋蔵文化財関係

#### 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

第36回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	27.06.18、19	主催：(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
----------------------	-------------	-----------------------------------

#### 近畿ブロック主催者会議等

平成27年度第1回(第51回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議	27.06.12	主催：(公財)元興寺文化財研究所
全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック埋蔵文化財研修会	27.11.27	主催：(公財)八尾市文化財調査研究会
第30回全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック事務担当者会議	27.11.20	主催：(公財)大阪市博物館協会
平成27年度第2回(第52回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議	28.02.05	主催：(公財)和歌山県文化財センター
平成27年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議	28.02.12	主催：(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
平成27年度第1回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	27.07.06	主催：(公財)向日市埋蔵文化財センター
平成27年度第2回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	28.03.22	主催：(公財)向日市埋蔵文化財センター
和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議研修会	27.08.26	主催：会議事務局(和歌山県立近代美術館)
「関西考古学の日2015」スタンプラリー	27.07.18-27.11.30	主催：「関西・考古学の日」実行委員会 (全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック)

### 文化財建造物関係

平成27年度重要文化財建造物保存修理事業等監督者会議	27.04.9	主催：文化庁
平成27年度文化財建造物保存事業幹部技術者研修会	27.04.10	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
平成27年度登録有形文化財建造物修理関係者等講習会	27.07.23-25	主催：文化庁
平成27年度文化財建造物修理主任技術者講習会(普通コース)	27.08.20-28	主催：文化庁
平成27年度文化財建造物保存事業中堅技術者研修会	27.09.28-10.01、11.09-12	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
平成27年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会	27.10.19	主催：文化庁
平成27年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会	27.10.20、21	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会

## 委員委嘱

村田 弘	紀の川市文化財保護審議委員	27.04.01-28.03.31
村田 弘	名手本陣保存整備委員会委員	27.04.01-28.03.31
村田 弘	紀の川市河川整備委員会委員	27.04.01-28.03.31
川崎 雅史	御坊市文化財保護審議委員	27.04.01-28.03.31
川崎 雅史	みなべ町文化財保護審議委員	27.04.01-28.03.31
結城 啓司	金剛峯寺境内（奥院地区）大名墓総合調査委員会	27.04.01-28.03.31

## III 講師派遣・執筆など

### 埋蔵文化財関係

村田 弘	「和歌山県の埋蔵文化財―『風車』発掘夜話の世界から―」平成 27 年度和歌山県高等学校社会科研究協会定期総会	27.05.21	於：和歌山県立図書館
村田 弘・山本 光俊	「出前授業」	27.05.26	於：和歌山市立川永小学校
土井 孝之	「海南市・紀美野町の文化遺産について」海南・海草議会議員連絡協議会研修会	28.02.02	於：海南保健福祉センター

### 文化財建造物関係

多井 忠嗣	「広八幡神社の文化財建造物修理の見学」和歌山建設クラブ	27.04.19	於：広八幡神社
多井 忠嗣・下津 健太郎	「浜座敷内見会」解説	27.05.09	於：琴ノ浦温山荘
多井 忠嗣	「見て知る伝統技術」	27.10.04	於：広八幡神社
多井 忠嗣	和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会「伝統的建造物の構法と技法」	27.10.17	於：和歌山県建築士会館
多井 忠嗣	和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会「文化財建造物の修復」	27.01.16	於：和歌山県建築士会館
下津健太郎	和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会「文化財研修現場の視察」	28.02.06	於：広八幡神社
多井 忠嗣・下津 健太郎	平成 27 年度主任技術者研修会「重要文化財 琴ノ浦温山荘浜座敷ほか 2 棟保存修理工事」	27.10.20	於：東京国立博物館平成館
多井 忠嗣	「和歌山県 県指定文化財総持寺総門・鐘楼―和歌山県北部の近世建物と谷川瓦―」 『文建協通信 No.122』	27.10	発行
結城 啓司	「和歌山県 重要文化財法音寺本堂・雨錫寺阿弥陀堂―茅葺きに関する史料紹介及び経過報告―」 『文建協通信 No.122』	27.10	発行
松井 美香	「和歌山県 県指定文化財旧和歌山県会議事堂―県会議事堂の谷川瓦―」『文建協通信 No.122』	27.10	発行

## IV 刊行図書・出版物等

### 年報

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2014』	27.05.29	発行
----------------------------	----------	----

### 埋蔵文化財課関係

#### 調査報告書

『木津遺跡―国道 424 号道路改良事業に伴う発掘調査報告書―』	27.09.19	発行
『西波田遺跡・東波田遺跡―和歌山橋本線道路改良事業に伴う発掘調査報告書―』	27.09.30	発行
『川辺遺跡―都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う発掘調査報告書―』	27.10.31	発行
『小松原 II 遺跡、湯川氏館跡―湯川中学校改築工事に伴う発掘調査報告書―』	28.03.24	発行
『和歌山城跡―和歌山地方合同庁舎新築に伴う発掘調査報告書―』	28.03.31	発行

### 現地説明会資料

「田屋遺跡―県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査―」現地公開資料	28.03.06	発行
「寺内古墳群、相方遺跡」現地説明会資料	28.03.06	発行
「新宮城下町遺跡～道路と家臣の屋敷地～」現地説明会資料	28.03.26	発行

## 報告会・シンポジウム資料等

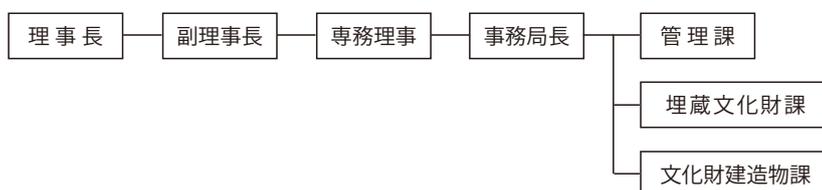
『地宝のひびきー和歌山県内文化財調査報告会ー』資料集	27.07.20 発行
『紀州のあゆみ』展示リーフレット	27.10.10 発行
『歩いて知る歴史探訪～湯川氏の故地を訪ねる～』古絵図で歩く御坊駅周辺の文化財マップ	28.01.30 発行
公開シンポジウム『紀中・紀南の旗頭 湯川氏の城・館・城下町』発表資料集	28.01.30 発行
和歌山県の文化財②『和歌山市 県指定史跡 水軒堤防 江戸時代の石積み技術の結晶!』	28.03.31 発行

## 埋蔵文化財と文化財建造物のミニ情報誌 (公財) 和歌山県文化財センター通信『風車』

第71号 特集「和歌山城跡の整理」	27.06.30 発行
第72号 特集「新現場紹介」	27.09.30 発行
第73号 特集①「幻の寺 別寺」②「平井遺跡、平井Ⅱ遺跡の出土遺物等整理業務から見えてくること」	27.12.28 発行
第74号 特集「登録有形文化財の保存修理」	28.03.31 発行

## V 組織

### 組織図



### 役員 (理事)

理事長	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 館長	(～ 27.06.25)
理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授	(27.06.26 ～)
副理事長	宮下 和己	和歌山県教育委員会 教育長	
専務理事	里森 修	元和歌山県農林水産部 水産局長	
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員	(27.06.26 ～)
理事	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 館長	(27.06.26 ～)
理事	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授	(～ 27.06.25)
理事	鈴木 嘉吉	元奈良国立文化財研究所 所長	
理事	中村 貞史	御坊市歴史民俗資料館 館長	(27.06.26 ～)
理事	西川 秀紀	宗教法人東照宮 代表役員	
理事	林 宏	一般社団法人和歌山県文化財研究会 会長	
理事	前田 孝道	宗教法人護国院 代表役員	(～ 27.06.25)
理事	水田 義一	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長	

### 役員 (監事)

監事	風神 正典	税理士・風神会計事務所 代表社員
監事	楠 義隆	和歌山県教育庁 生涯学習局長

### 評議員

市川 浩之	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
井藤 徹	日本民家集落博物館 館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 院代
加藤 容子	元和歌山県教育委員会 教育委員
佐々木公平	宗教法人広八幡神社 代表役員
千森 督子	和歌山信愛女子短期大学 教授
苗代 吉登	和歌山県立博物館 副館長
水上 勇人	和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課長
山陰加春夫	高野山大学 名誉教授
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長

### 職員

事務局長

米田 良博

参 与

村田 弘  
寺本 就一

管 理 課

主 査	松尾 克人
副 主 査	出口由香子
副 主 査	中野 一三

埋蔵文化財課

課 長	土井 孝之
課長補佐	佐伯 和也
副 主 査	山本 光俊
任期付職員	川崎 雅史
専門調査員	山野 晃司
専門調査員	小林 充貴
専門調査員	森原かおり (27.12.15～)
嘱 託	井石 好裕

文化財建造物課

課 長	多井 忠嗣
副 主 査	下津健太郎
副 主 査	結城 啓司
技 師	大給 友樹
技術補佐員	田村 収子 (～27.04.30)
技術補佐員	松井 美香

表紙図案

表紙右上 和歌山城跡出土 肥前系染付瓶  
表紙下 丹生都比売神社輪橋 西側面図



公益財団法人  
和歌山県文化財センター年報  
2015

2016年5月31日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター  
〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の1  
TEL 073-472-3710  
FAX 073-474-2270  
<http://www.wabunse.or.jp/>  
E-mail maizou-1@wabunse.or.jp

【印刷】

株式会社 協和

(公財)和歌山県文化財センター

<http://www.wabunse.or.jp>

